ライオン誌7月号 2007年（平成19年）7月20日発行
昭和33年12月19日付第3種郵便物認可
毎月1回20日発行第50巻第2号

IN JAPAN
Official publication
of Lions Clubs
International

August 2007

8

THEME I シカゴ国際大会

THEME II 2007-08年度国際会長プログラム

第50巻第2号

We Serve

CONTENTS

国際会長メッセージ

変化はリーダーシップとクラブの双方から

2007-08年度国際会長
マヘンドラ・アマラスリア

変化への挑戦
Challenge to Change

President's Message

国際会長就任は私にとって光栄であると同時に、大きな試練でもあります。ライオンズクラブは今、継続的な成功を確実なものとするため、自らの運命に責任を負うべき時期を迎えています。

私の会長テーマ「変化への挑戦」は、パラダイム・シフトを強調したロス前国際会長のテーマ「ウィ・サーブ」を再確認するものです。私たちライオンズは世界の変化に応じて変わっていかなければなりません。

「変化への挑戦」とは、具体的に何を意味しているのでしょうか？　それはクラブが会員招請や有効な例会運営の新しい方法を見つけることです。そのためには創造的な取り組みが必要です。例えば、クラブの例会にカラオケを取り入れてみる。あらゆるクラブで有効ではなくとも、役立つクラブもあるでしょう。

変化への取り組みは、指導者とクラブ双方のレベルで進めるべきです。国際レベルのリーダーたちは効果的で永続的な変化に迅速に取り組むことを、私がお約束します。しかしクラブレベルで変化が生じなければ、それが定着することはありません。クラブが意識的・計画的に若い会員の招請に取り組み、彼らの望むことを理解しようとしない限り、ライオンズの精神を次世代に引き継ぐことは出来ないのです。

私たちの伝統のすばらしさは明白です。その本質、基本的な価値観は損なわれてはなりません。しかし手段に関しては、私たちは変化の必要に迫られています。有効なあらゆる方法を最大限に活用する必要があるでしょう。

私のプログラム「変化への挑戦」（18㌻）では、会員が特に重視すべき取り組みを挙げています。第1に、恐らく最も重要なのは、ライオンズというブランド名を再生させることです。社会的なイメージの再構築です。国際レベルの指導者はそのために全力を傾けます。クラブレベルでも努力してください。私たちは、もっと魅力的で現代的な広告、パンフレット、ウェブサイト、また有効な例会や奉仕事業を通して、ライオンズに対する他者の認識を変えられるはずです。流行を追う必要はありませんが、現代的な組織と見なされる必要があるのです。

また、新会員や若い会員を確保し、指導力育成やPRの方法を改善すること。MJFの数を増やしLCIFへの支援を高めること。更に、レオの活力を回復させ、その可能性を十分に発揮させると共に、ライフスキル・プログラム、ライオンズクエストの拡大にも取り組まねばなりません。

最後に、CSF IIの基本目標1億5千万㌦、挑戦目標2億㌦達成も同様に重要です。数百万人もの児童や成人の視力が、今も危険にさらされています。

私たちの課題は困難ですが、やりがいのあるものです。常に情熱と目的を失わず、地域社会の再生に貢献する同時に、クラブの再構築を進めていきましょう。その結果、ライオンズの奉仕は今後も発展していくに違いありません。

『ライオン』誌
創刊50周年記念
論文募集

■テーマ

「明日のライオンズを考える」

THE Lion IN JAPANESE

『ライオン』誌日本語版は日本にライオンズクラブが誕生して6年目の1958年、ライオンズクラブ国際協会の公式機関誌として創刊されました。それまで配布されていたのは英語版で、日本語版発行を望む声に対して国際本部は会員3,000人以上という目安を示しました。この時、56年6月末の会員数は1,040人。それが翌57年6月末には2,600人を超え、58年には一気に4,000人に迫り、『ライオン』誌日本語版創刊号は4,500部で発行されました。

2008年、日本ライオンズの歴史を活写してきた『ライオン』誌日本語版は創刊50周年を迎えます。ライオン誌日本語版委員会はこれを記念し、ライオンズの明日を考え、将来の展望を開くことを期して「明日のライオンズを考える」をテーマに論文を募集します。奮ってご応募ください。

募集要領

＜テーマ＞ 「明日のライオンズを考える」-----クラブ運営やアクティビティなどについて普段感じていること、考えていることを踏まえて、明日のライオンズ像を論じてください。

＜文字数＞ 2,000字程度

＜締　切＞ 2007年10月10日（水）必着

＜応募資格＞ 日本国内のライオンズクラブ会員

＜選　考＞ ライオン誌日本語版委員会が行い、最優秀作1点、優秀作3点、佳作10点を選考

＜発　表＞ 最優秀作、優秀作は『ライオン』誌50周年記念誌掲載
入賞者にはそれぞれ記念品を贈呈

＜応募要領＞ ●氏名、所属クラブ名、年齢、住所、電話番号を明記してください。
●Eメール、郵送、FAXのいずれかの方法でライオン誌事務所に論文を送付してください。 応募論文は原則として返却しません。

＜送付先＞ Eメール：edit@thelion.jp　FAX：03-3546-2630

住所：〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌日本語版事務所

＊Eメールの場合は表題、FAXまたは郵送の場合はあて先に「50周年記念論文」と明記

第90回ライオンズクラブ国際大会

ウェルカム・ホーム

誕生の地で協会創設90年を祝った世界のライオンズ

2007年7月2日〜6日　アメリカ・イリノイ州シカゴ

■取材／編集部

❶

❶❸国際協会創設90周年、女性会員20周年、レオ50周年など祝賀ムードに包まれた開会式
❷3回の本会議はNBAシカゴ・ブルズの本拠地ユナイテッド・センターで行われた
❹第90回国際大会を主宰したジミー・ロス国際会長
❺開会式のハイライト、フラッグ・セレモニー

❶

❷

❹

❸

❻

❺

❶～❻日本ライオンズのパレード。日本はパレード・コンテストで、ユニフォーム部門の2位に入賞（❹：後藤隆一、重松良次両国際理事候補、❺：日本のパレード・ユニフォームを着たカナダの子ども）
❼以降、各国のパレード風景（❼：パレード・コンテスト州選抜バンド1位のミシシッピ・ライオンズ・オールステートバンド〔30複合地区〕、❽：パレード・コンテストのフロート部門1位のイリノイ州ギブソンシティ・ライオンズクラブ〔1複合地区〕、❾：パレード・コンテスト高校生バンド1位のレッドフィールド高校マーチングバンド〔5複合地区〕）

⑦ ⑧ ⑨

⑫

⑪

⑩

⑮

WHISTLING OUR SONG FOR ALL TO HEAR
LIONS ARE NEAR

⑭

HAPPY
50TH
LEO INTERNATIONAL

⑬

❶～❸7月4日、大会センターのマコーミックプレイスでライオンズクラブ国際協会90周年を祝う記念式典が催され、大会参加者にチョコレートケーキが配られた

❹２００８年の第91回バンコク国際大会のＰＲブース
❺バンコク大会の事前登録場

ウェルカム・ホーム――おかえりなさい、ライオンズ。１９１７年の国際協会創設から90年目を迎えた今年、誕生の地シカゴに約1万5千人のライオンズと家族が集まった。

シカゴ国際大会を振り返ると、3つのキーワードが浮かんでくる。

まずは「祝典」。今年は創設90周年に加え、レオクラブ創設50周年、女性会員の入会が承認されてから20周年、国際平和ポスター・コンテストの20周年に当たる。開会式では四つの節目を祝う歌と映像が披露され、聖歌隊の熱唱が会場を大いに盛り上げた。大会サービス・センターには大きなバースデー・ケーキの模型が置かれ、チョコレート・ケーキを振る舞うパーティーも開かれた。

次に「ＣＳＦⅡ」。昨年、一昨年の国際大会でもクローズアップされたが、キャンペーン最終年に向けて今大会でも随所に関連のプログラムが盛り込まれた。中でも6日の閉会式では、基調講演にノーベル平和賞受賞者のジミー・カーター元アメリカ大統領を迎えた。カーター元大統領は失明予防のパートナーとしてラ

❻CSFⅡのブースに設けられたモデルクラブの一覧に自クラブの名前を発見
❼国際平和ポスター･コンテストのブース前で行われた最優秀賞受賞者のサイン会
❽MJF昼食会で200%MJFクラブの表彰を受ける名古屋サウス･ライオンズクラブ
❾環境写真コンテスト表彰式。「気象部門」でライオン大橋周次（奈良県･橿原）が優秀賞に
❿〜⓬大会センターでは連日、各種セミナーが開催され、CSFⅡセミナーでは栢森新司元地区ガバナー（ナショナル･コーディネーター）が事例報告を行った
⓭今回の大会では国際本部ツアーもあり、多くのライオンズが訪問した

イオンズとカーター・センターが取り組む、主にアフリカでの活動の現状と成果について語った。ライオン歴53年の元地区ガバナーでもあるカーター元大統領は「ライオンであることを誇りに思う」と述べて、CSFⅡの成功に協力を訴えた。

三つ目は「変化」。国際理事会では今、協会のイメージ刷新が検討されているが、今大会でも若い世代へのアピールを意識した演出が見られた。前述の開会式で流された映像はポップで、新鮮な印象を与えた。アマラスリヤ新国際会長のテーマは「変化への挑戦」。閉会式の就任演説ではiPod（アイポッド：アップル社の携帯音楽プレイヤー）を例に時代の変化のスピードと大きさについて述べ、ライオンズも若いiPod世代を会員に迎えようと訴えた。また、変化はトップダウンではなくボトムアップ、まずはクラブから始めよう、とも。

10年後の100周年をどのように迎えるのか。「変化への挑戦」に、ライオンズの将来が掛かっている。

※代議員投票の結果、各種表彰は37ページ以降に掲載

第２回総会では視覚障害を持つグラミー賞歌手ロニー・ミルサップ氏が、視力ファーストに対して感謝の気持ちを表し歌を披露してくれた

❶〜❹CSFⅡ表彰
❺第2回総会の中で行われたメータLCIF理事長による年次報告
❻25万人目のMJF瀬野和博（愛媛県・今治）
❼第2回総会で立候補演説をする、エーバハルト・J・ヴィルフス国際第2副会長候補、❽重松良次国際理事候補、❾後藤隆一国際理事候補
❿日本ライオンズ代議員会
⓫投票場の出口で日本の代議員に投票証明書が配布された

7

9

8

11

10

❶❷閉会式で視力ファースト事業とCSFⅡについて講演をするジミー・カーター元アメリカ大統領(元地区ガバナー)。失明予防活動に取り組む非営利組織カーター・センターを主宰し、アフリカなどでライオンズと共にトラコーマやオンコセルカ(河川失明)症根絶のために活動。2002年にはその功績によりノーベル平和賞を受賞している
❸カーター元大統領の講演があったためか、閉会式の会場も例年より多くの参加者で埋まった
❹世界各国のライオンズを前に就任演説をするマヘンドラ・アマラスリヤ新国際会長
❺~❻新国際会長の就任を祝う参加者たち
❼国際大会の締めくくりは地区ガバナー就任式。全世界のガバナーが一斉にエレクトのリボンをはずし、この瞬間から新年度がスタートする

国際理事活動報告

絶えず挑戦者であり続けたい

国際理事
伏見　龍
（神奈川県・横浜みなとマリン）

歴史に残る第90回シカゴ国際大会において、ライオンズクラブの最高の栄誉である国際親善大賞をジミー・ロス国際会長から授与された。万来の拍手に祝福され身に余る光栄に感激。今年の受賞者は世界で17人であった。

2年前、第88回香港国際大会において、夢にまで見た国際理事に就任したが、同時に激動の中へ突入。今まで我々に与えられていた情報は、戸の隙間から垣間見る程度のものであった。すべてが新しく戸惑いも多かったが、感動の連続でもあった。リーダーとしてさまざまなことを学び、国際理事に就任したことをつくづく感謝したい。就任時、アショク・メータ国際会長（当時）のあいさつに「あなた方は世界のリーダーとして、余人に替え難い貴重な体験をする機会を得た人たちです」という魅力的な言葉に、責任の重さと共に胸の熱くなるのを覚えた。国際協会の運営、会議方式はすこぶる迅速で合理的。小気味よくかつ、的確な対処に舌を巻くばかりで、鮮烈な印象を受けた。これこそ世界のトップ会議と言えるだろう。

とにかく全力投球の2年間であった。就任してこの方、人間的に丸味や幅、寛容が増したとの周囲の評価は面はゆい。臆することなく歯に衣着せぬ物言いで相手を圧倒してきた以前に比べ、確かに国際理事という重責をしっかりと受け止めている自分を褒め、苦笑い。

在任中、国際協会の情報を常に新しい試みで提供。手法として写真入りのレポートを発信し続けた。日本のメンバーのためにと気負ったものの、てらうつもりは決してなかった。ただひたすら研鑽を積み、タイムリーにメンバーへ発信したことが良い方向で伝わり、質問や激励の手紙が多く寄せられたのは望外の喜びである。

無我夢中で任務に明け暮れた日々。今ようやく、冷静に振り返る余裕が少しばかり持てるようになった。国際理事として果たしてこれで良かったのか。国際協会を誰よりも身近にとらえていながら、膨大な資料の消化に忙殺され、時間がとても足りず、気付けば意図と結果の乖離は否めない。理事としての理想や、就任当時の燃えたぎっていたあのエネルギーはどこへ……。国内の行事も存外に多く時間の無さに苛立ちを覚える。

しかしながら、2年間の学習を生かし、この先も、元国際理事として日本ライオンズのため、また、アマラスリヤ国際会長の方針の実現のために、今一度自分に問う。「努力は、例えそれが何であれ、いつもある種の利益をもたらしてくれるもの。退任の今がスタート……むしろ本当の意味で緒についたばかりなのかも知れない。明日に夢をはせ、リーダーであるも、絶えず挑戦者であり続けたい」と、再び奮起に燃える。

皆様の心温まるご支援とご協力が何よりの応援で嬉しく、ありがたく、私の人生に貴重な体験の時間を与えて頂きましたことに厚く御礼を申し上げます。

国際理事活動報告

協会の100周年に向け、日本の独自性を

国際理事
山田實紘
(岐阜県・美濃加茂)

皆様より多大なるご支援をたまわり、何とか2年間、国際理事の任期を全うすることが出来ました。皆様方の温かいバックアップに心より感謝申し上げます。

思い起こせば、あっという間の2年間でした。国際理事として皆様の役に立てたのか、まだまだやり残したことの方が多く、不完全燃焼のまま任期が終わったような気もします。

国際理事2年目は、国際協会の心臓部である執行委員会に所属しました。執行委員は名誉職ではなく、実際に頭を使い、本当に心を砕いて仕事をするところで、「ライオンズって何なのだろう?」と本気で考え続けた1年でした。

世界200カ国、130万人の会員を一つの目的に方向づけて進むというのは、並大抵のことではありません。宗教も違い文化も違う中で、また、富める国、貧しい国がある中で、「奉仕とは何か。何に何を与えるべきなのか。いったいどこにライオンズの光を当てるべきなのか……」を考えてきました。その中で国際協会の大きな悩みを知ってしまったような気も致します。

政党、宗派などイデオロギーにはかかわらないライオンズではありますが、世界を一つにグローバルにまとめるということは、非常に困難なことです。

特にこの1年の間にインド・南アジア・アフリカ・中東(ISSAME)、東洋・東南アジア(OSEAL)を軸としたパン・アジア会議が非公式に開催され、これらの地域が、本家のアメリカに代わる勢力として台頭してきています。これはライオンズ国際協会90年の歴史の中でも初めての動きであり、日本の立場は本当に微妙になってきています。

ISSAMEはインドを中心に、またOSEALは韓国を中心としてパン・アジアの動きがある中で、ここに日本が取り込まれることは、OSEALの中では韓国に追随する形になり、下手をすると日本はアイデンティティーがなくなる可能性もあります。

それではアメリカと手を結んで力を発揮すべきでしょうか。今、まさに二者択一の時が来ております。私自身は、日本はライオンズ発展の歴史に軸をおいて持てる力を十分に発揮すべきであり、ISSAMEに利用された日本ライオンズであるべきではないと考えております。

いずれにせよ、日本からいかに強いリーダーシップを持ち、世界に吼えられるライオンを国際会長として誕生させることが出来るかに掛かっていると考えます。もう待ったなしの状態であります。

そして、ライオンズ創設100周年を、日本の力を示しながら迎えることが大切であります。

国際理事として、日本のアイデンティティーをどのように表現しようか考えさせられた2年間でした。

多大なるご支援、ご声援をたまわり、ありがとうございました。

2007–08年度
国際会長プログラム
変化への挑戦
CHALLENGE TO CHANGE

国際会長　マヘンドラ・アマラスリヤ

2007–08年度 プログラム

国際協会には、先進国及び発展途上国に住む、さまざまに異なる文化的背景を持った会員たちがいます。それゆえに、画一的なプログラムが、世界各地において適切とは限りません。

私は、世界のライオンズが検討すべき2種類のプログラムを提示します。

1　中核プログラムは、世界のほぼ全域で適用されます。

2　地域別／任意選択のプログラムは、世界のある特定の地域に、より深く関連性があります（これらの地域のライオンズは、中核プログラムに加えて、地域や国のニーズに関連した地域別／任意選択のプログラムを一つまたはそれ以上選択し、それらに重点的に取り組むことが出来ます。また、先進国のライオンズは、地域別／任意選択のプログラムを基盤とし、発展途上国のライオンズと共同事業を計画することも出来ます）。

中核プログラム

1、ライオンズクラブの新たなイメージ構築への挑戦

何を変化させるべきか？　どのように変化するべきか？

a　ライオンズクラブのイメージ：ダイナミックで、柔軟性のある21世紀の組織

b　会員増強：40歳未満及び女性に焦点を当てた、計画性のある質の高い会員増強

c　奉仕事業：地域社会の切実なニーズに対応する、計画性のある代表的な事業

d　例会：Eメール、インターネットのチャット、電話会議、事業実施現場などでの、短時間で活気のある面白い例会

e　未来に向けた計画：クラブ及び地区レベルの戦略的計画の策定

f　国際本部の機構：全世界の会

員に対し、費用効率の良いサポートを提供するために、既に行われている国際本部の全体的な機構編成の終了

2、質の高い会員2万人獲得による会員増強への挑戦

目標――2万人以上の会員純増。変化を受け入れることによってのみ達成出来る、非常に積極的かつ楽観的な目標。私が下記に示すのは、306複合地区（スリランカ）の指導者たちによってまとめられた質の高い会員のいくつかの特徴（性質）です。新会員の質と数の両面で妥協することがないようにするための指針として、質の高いライオンズの性質を「八つの不可欠な性質」と称します。

「八つの不可欠な性質」

1　ライオンであることの義務を果たす能力
2　誠実さ
3　ライオンズの奉仕活動に積極的に時間を割く意欲
4　奉仕への決意
5　社会的に受け入れられる品行
6　チームプレーヤー
7　クラブとの相性
8　他人への思いやり

ライオンズクラブ国際協会全体における会員純増率は、1・5%を目標とします。

会員増強を促進するために、地区ガバナー・エレクト・セミナーのグループリーダー及びメンターで構成される「チーム20K『2万人増強チーム』」が会員増強の状況をモニターします。「チーム20K」にはまた、複合地区／単一地区レベルにおけるプログラムの進捗状況をモニターする20Kコーディネーターも含まれます。なお同チームは、既存のMERLチームと連携して活動を行います。

（表1）会員増強への挑戦

会則地域	2006年7月1日現在の会員数（人）	これまでの傾向に基づいた目標（人）	純増率(%)
1. アメリカ合衆国及びその領域、バミューダ、バハマ諸島	400,000	850	0.2
2. カナダ	40,000	150	0.4
3. 南アメリカ、中央アメリカ、メキシコ、カリブ海諸島	90,000	250	0.3
4. ヨーロッパ	270,000	5,000	1.9
5. 東洋·東南アジア	270,000	6,000	2.2
6. インド、南アジア、アフリカ及び中東	190,000	7,500	4
7. オーストラリア、ニュージーランド、パプアニューギニア、インドネシア及び南太平洋諸島	40,000	250	0.6
合計	1,300,000	20,000	

3、21世紀に向けた質の高い指導者育成への挑戦

21世紀のライオンズの活動を、効果的に導いてくれる指導者の新しいイメージを構築するためには、質の高い講師陣を増やす必要があります。下記の戦略が、それを可能にします。

a　指導力育成における最新技術の活用
b　オンライン学習の普及
c　革新的なリーダーシップ研究会の実施
d　経験豊富な講師陣の数の増加

4、老若男女の会員から成る1250の新クラブ結成への挑戦

本協会に新しい勢力そして新鮮なアイデアを注ぎ込むには、新クラブ

の結成を強調する必要があります。これは、特に会員が高齢化している国々に言えることです。

将来の指導力強化のために結成される新クラブは、下記のようであることが望ましいのです。

a　少なくとも25～30％が40歳未満の会員

b　男女が混ざり合い25～30％が女性

下記の戦略も考察するべきです。

a　インターネットを通じたクラブ結成（サイバー・クラブ）

b　国外に移民した人々によるライオンズクラブの結成

5、MJFの数を35万人に増加、LCIFの援助資金増大への挑戦

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）の資金は、メルビン・ジョーンズ・フェロー（MJF）及び累進MJF献金が7割を占めています。

世界をより良くするために貢献している世界的な事業に対し資金提供を行うには、LCIFの資金を大幅に増加させる必要があります。本年度中、MJF及び累進MJFになることに対しこれまで以上の意欲を出せば、視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）の資金獲得目標は達成されます。それゆえに、2007・08年度中にMJF及び累進MJFを更に5万人増やし、合計で35万人にすることを目標に掲げる必要があるのです。

またLCIFからの資金を利用して、地域の重要なニーズを満たす大規模な奉仕事業の実施に向けて挑戦してください。

6、CSFⅡの基本目標1億5千万ドル、及び挑戦目標2億ドル達成への挑戦

基本目標の1億5千万ドル、及び挑戦目標の2億ドルは、CSFⅡが始まった2005・06年度に設定されました。

私たちは、斬新かつ積極的な世界規模の資金獲得活動を通して、1億5千万ドルの基本目標及び2億ドルの挑戦目標の達成に前向きに取り組まな

ければいけません。

7、レオ活動発展への挑戦

ライオンズクラブは、学校または地域を基盤としたレオクラブをスポンサーすることが奨励されます。そしてライオンズクラブはスポンサーしたレオクラブとより緊密に交流し、自分たちが必要とされているとレオに感じさせる必要があります。また、国際協会に支払われるレオクラブの年会費は、スポンサーである各ライオンズクラブが負担することを義務付けます。

レオ活動に参加する青少年との信頼関係が確立出来、レオの活動を持続させることの出来る、若くて有能な会員（出来れば元レオ会員）をレオ顧問に任命することも必須条件です。

8、ライオンズクエスト・プログラム、50カ国に拡張への挑戦

ライオンズクエスト・プログラムは世界で最も受け入れられている青少年育成プログラムです。しかし、必ずしもこのプログラムに十分な注目が集まっているとは限りません。

2005-06年度からライオンズクエスト諮問委員会が設けられ、同プログラムがより積極的に進められています。同委員会は、ライオンズクエストを少なくとも50カ国に広めるための戦略を展開する任務を担っています。出来るだけ多くの地区及び国で同プログラムを実施するよう要請します。

9、全世界におけるPR活動の再編及びライオンズクラブの新しいイメージの構築への挑戦

最新の方法を活用しライオンズクラブのPRを促進すると共に、ライオンズクラブの新しいイメージを再構築する必要があります。ライオンズクラブは秘密の組織であるべきではなく、地域及び世界規模での効果的なPRプログラムにより、ライオンズの理念を世界の人々に流布する必要があります。

a　地域での活動を際立たすことによって

b　地区及び複合地区に向けたラインズクラブ国際協会からの財政支援を通じて

地域別／任意選択のプログラム

国連の「ミレニアム開発目標」の達成に向けた、国際グローバル・コンパクト・プログラム実施による世

界各地の地域援助への挑戦：

新世紀（ミレニアム）における人類の課題について検討するために、２０００年９月、世界の指導者たちがニューヨークで開かれた国連総会に集まりました。

ここで採択された「ミレニアム宣言」には、世界の平和、協調、及び発展に対する願望がまとめられています。それは、開発、統治、平和、安全、人権に関する具体的な目標及び目的に関する一つの枠組みによって始まります。

この宣言に基づく「ミレニアム開発目標」は非常に意欲的なもので、２０１５年までに達成すべき目標として、国連によって既に設けられた公約があります。そして、発展途上国のライオンズは、彼らの地域に関連性のある事業にもう既に取り組んでいます。世界２００カ国で活動しているライオンズクラブ国際協会は、これらの目標の達成に向け、多くの発展途上国政府を支援する上で理想的な組織です。

世界各地のライオンズはそれぞれの地域に精通しており、最大の効果をもたらすことが出来る分野があります。上記のミレニアム目標と挑戦の一つ以上に対して、その得意分野を生かした活動を集中的に行いましょう。

地域別／任意選択のプログラムとしてかかわろうとしているミレニアム開発目標は、広範囲にわたる活動を対象としています。クラブや地区が、これらのすべてに参加出来るとは思っていません。クラブや地区は、特定の地域のニーズを満たす上で適切と思われる一つ以上のプログラムを選択し、関与すべきと考えます。

ライオンズクラブ国際協会の公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）に詳しい内容を掲載致しますのでご覧ください。

（表2）ミレニアム開発目標と私たちのプログラムによる挑戦

ミレニアム開発目標	私たちのプログラム
目標1　極度の貧困と飢餓を解消する －１日当たりの収入が１ドル未満の人々の比率を半減させる	職業訓練の促進により、青少年に有給雇用の機会を提供することへの挑戦
目標2　初等教育を完全に普及させる －全世界で子供たちが男女隔たりなく初等教育を修了出来るようにする	発展途上国での初等教育の状況を改善することへの挑戦
目標3　男女平等と女性のエンパワーメント（地位向上）を図る －教育のあらゆるレベルにおける性別格差を無くす	女性に権限を与えることへの挑戦
目標4　幼児死亡率を低下させる －５歳未満の乳幼児の死亡率を66％減らす	世界中の子どもたちの保護に対する挑戦
目標5　妊産婦の健康状態を改善する －1990年から2015年の間に、妊産婦の死亡率を75％減らす	妊産婦の健康改善への挑戦
目標6　HIV/エイズ、マラリアなどの病気と闘う HIV/エイズの蔓延を食い止め、減少させる	HIV/エイズの発症率を減少させると共に、エイズ患者のカウンセリング手順を設けることへの挑戦
目標7　環境の持続性を確保する －持続可能な環境作りに関する指針を、各国の政策やプログラムに織り込み、環境資源の喪失を食い止め回復に向けると共に、2020年までに少なくとも1億人の貧困者の大幅な生活改善を達成する	世界の環境保護への挑戦
目標8　開発のためのグローバル・パートナーシップを構築する	先進国及び発展途上国にあるクラブと地区の間でのパートナーシップを奨励することへの挑戦

世界の恵まれない人々が抱える数多くの深刻なニーズに応える活動プログラムを、私は世界中のライオンズに対し提示しました。これまでにも増して、効果的に中核プログラムを実行すると共に、本協会のすばらしい人材である世界中の意欲あるライオンたちを活用し、一つまたはそれ以上の地域別／任意選択のプログラムに着手するよう、私は皆さんに挑戦を投げ掛けます。ライオンズは配偶者を始め、ライオネスやレオと共に世界をより良く変える力を持った、最も力強い人道主義的部隊を構成しているのです。

マヘンドラ・アマラスリヤ新国際会長

指導者としての長い経験を生かして

マヘンドラ・アマラスリヤ新国際会長は数年前、スリランカの有力誌の表紙を飾った。銀行家で企業リーダーでもある彼は、母国の政界・ビジネス界の上層部と深く結びついた家庭に生まれた。従って彼は、指導者としての長い経験を持っている。

また、組織変革の経験もある。会長をよく知る人々によれば、彼にはビジネスに関する先見の明があり、将来を見通す能力に恵まれている。「彼は指導者として、人々の意欲をかき立てました。常に全力を傾け、先頭に立って人々を導いてきたのです」と、仕事仲間のケン・バレンドラは言う。スリランカのマーセラ・シルバ元協議会議長も「彼は今日を考え、明日を考え、明日の次のことまで考えます」と述べている。

ライオンズは今、転変する世界への適応を求められている。「国際会長としての任期中、私は全力で変化を推進するつもりです」とアマラスリヤ会長は語る。

変化の唱道者

1980年代、元地区ガバナーだったアマラスリヤ会長は、女性がなぜ会員になれないのか理解出来なかった。国際協会が女性の入会を認める5年近く前のことである。彼には、女性会員を受け入れることに数々の利点が感じられたのである。「特に南アジアの国々では、女性はライオンズで常に重要な役割を果たしていました」と彼は言う。「世界の他の地域とは異なり、彼女たちはクラブ例会に出席していました。また、特に子どもたちを対象にした事業にも参加していました。そのため私は、女性を正会員として迎え入れる時期が来ていると感じたのです。スリランカではずっと昔から、その立場が与えられていたからです」

貧しい女性を支援するためミシンを手渡すアマラスリヤ会長。習慣や手続に変化を「縫い込む」よう、彼はライオンズに求めている

アマラスリヤ会長は伝統に反して、女性を会員として認める決議案を提出した。この提案はそれまで、正式には一度も検討されたことのないものであった。世界130万人のライオンズの指導者となった今日に至るまで、彼はこうした革新の精神を貫いている。彼は変化を推進し、会員にも同様の努力

を求めることになるだろう。つまり、会員は例会、奉仕、会員招請の新たな方法を採用しなければならない。

「方法が有効である限り、それを変える必要はありません。しかし、効果のないものであれば、すべてを変える覚悟が必要です」

シンハラ語を母語とするアマラスリヤ会長は、「ライオンズは革命を必要としているわけではありません。その基本的な価値観は、損なわれてはならないのです」と語る。

「しかし、基本的な方法については、いくつかの変化が必要です。そしてそれは、クラブ・レベルから始めなければなりません。上層部の指導者は、会員を動機付け、変化を促すことが出来るでしょう。しかし、私たちが先に進むためには、クラブが個々の会員の興味と意欲をかき立てる必要があるのです」

アマラスリヤ会長（右端）は7人姉弟の1人。自身の人格に対する母の影響を認めている

「私は組織を見直し、新たな方法を取り入れ、国際協会を確実に前進させようと計画しています」

アマラスリヤ会長はこのような変化の価値を、クラブでの個人的な経験を通して学んだ。彼は仕事仲間の招請を受けて、67年にガレ・ライオンズクラブのチャーター・メンバーに加わった。このクラブは、特に積極的なクラブとは言えなかった。数年間はステータス・クオの状態にあり、彼自身も平凡な会員の立場に甘んじていた。彼が目覚めたのは、クラブが貧しい村の支援に乗り出した時のことである。彼はその日、文字通り袖をまくり上げて作業に取り組まなければならなかった。

「私たちは水浴用の井戸を建設するため、掘削作業を行っていました。中には、疑り深そうに眺めている人々もいました。しかし、私たちはお昼までに作業を完了し、村人と自分自身を納得させることが出来たのです。それは恐らく、ライオニズムの重要性と大きな効果を、私が初めて理解した瞬間でした」

アマラスリヤ会長はまず、会計として会費を確実に集めることにより、クラブを再生に導いた。その後は会長として会員を動機付け、新たな事業に着手させた。「彼は一度参加を決意すると、ライオンズのために全力を尽くしてくれました」と、入会時のスポンサーであるライオンA・R・M・ザインは振り返る。

ライオンズに加わったことで、アマラスリヤ会長の経験は広がった。

「私はライオンズに加わることで、さまざまな人々と出会うことが出来ました」と彼は言う。「私の家族は上流階級に属していたのです。スリランカは小さな島国ですが、多民族・多宗教の社会です。会員として国内各地を訪ねる中で、私は人々と親しみ、彼らの物の見方や考え方を理解するようになりました。そのため、人間的なバランスを高めることが出来たのでしょう」

恵まれない人々を目の当たりにしたことは、特に子どもたちに対する彼の同情をかき立てた。彼は学校のレオクラブのスポンサーとなり、1

978・79年度には地区ガバナーとして、青少年奉仕団体の育成を支援した。この組織は、青少年の間に善良な市民としての自覚、環境保護、全般的な責任感を培うものであり、主に学校を基盤として約125の団体が設立された。

社会に還元することの重要性

アマラスリヤ会長は、スリランカの首都コロンボに7人姉弟の1人として生まれた。彼の祖父は、スリランカ初の茶園経営者の1人である。彼の父も地所を所有し、政治的な要職を歴任して最終的にはスリランカ（当時はセイロン）の上院議長となった。

アマラスリヤ会長に影響を及ぼしたのは、誰よりもまず母親であった。「母は非常に多才な女性でした」と彼は言う。「彼女は驚くほど多くの側面で、私を手助けしてくれました。宝石のデザインや翻訳が得意で、手を染めて上達しないものはほとんどなかったのです。彼女はその優れた人格によって、私の価値観、考え方、将来像を決定付けることになりました」

アマラスリヤ会長の父はスリランカの上院議長であった

母は父や祖父と同様、社会に還元することの重要性を彼に植えつけた。彼の父と祖父はスリランカ南部に学校を設立し、母は敬虔な仏教徒であった。「仏教は私に大きな影響を及ぼしています。私は母を通して、常に信仰に触れていたのです。彼女は後年、仏教の慈善事業のための資金集めにとても熱心に取り組むようになりました。従って、与えるという行為、慈善、奉仕に対する私の義務感は、彼女の影響によるものと言えるでしょう」

アマラスリヤ会長は、セイロン大学で植物学を学んだ。そこで彼は、クシュラニという魅力的なクラスメートに出会うことになる。彼は彼女の自宅を訪ね、化学の勉強を手伝った。彼らは互いに惹かれあっていた。「彼はクールでもの静かで、私の周囲にいたどんな人間とも違って見えました」と、彼女は振り返る。アマラスリヤ会長はと言えば、彼女は自分にぴったりな女性だと思っていた。彼は愛情を隠そうともせず、「彼女はとても知性的な女性です。同時にとても親しみやすく、あらゆる階層のあらゆる人々と信頼を築くことが出来るのです」と述べている。2人は卒業と同時に結婚した。

アマラスリヤ夫妻は結婚の日から固く結ばれている

アマラスリヤ会長は、クシュラニ夫人を熱愛している。一方の夫人は、ライオンズに対する彼の献身を、冗談めかして次のように語る。「それは一種の溺愛だと思います。彼は私との結婚よりも、まずライオニズムと結婚しているのです。私は2番目の妻なのね、といつも彼をからかっています」。その彼女も、やはり長年の会員である。

アマラスリヤ会長は貿易会社に勤め、ゴムとスパイス・オイルの輸出を

管理していた。彼は急速に昇進を重ね、スリランカのビジネス・リーダーの1人となった。現在はセイロン商業銀行の会長に任じ、ユナイテッド・モーターズの会長やスリランカ国際商工会議所の会頭を務めていたこともある。彼は聡明、意欲的、革新的で、すがすがしいまでに正直かつ率直である。「彼はコミュニケーションがとても上手です」と、仕事仲間のバレンダは言う。「気品があり、控えめで、率直にものを言うことが出来るのです」

彼は自らの価値観や誠意を犠牲にすることなく、頂点に登り詰めた人物である。ビジネス誌『ランカ・マンスリー・ダイジェスト』の表紙を飾った彼の記事は、商業倫理に関する質疑応答のインタビューであった。この記事の序文は、「我が国の追い詰められたビジネス界と政治界においては、彼の構築するイメージは稀なものとなりつつある。そこでは、職業意識と倫理が何よりも重視される」と述べている。

人々は彼を信頼し、その支持すべき立場を理解している、と彼の同僚は言う。「彼の成功の主な理由は、その誠意が疑いのないものであり、また愚直なまでに正直なことにあります」とバレンドラは言い、「マヘンドラは、正しい理由のためならどんな苦難も厭わないでしょう。彼は正義の勝利を目にするまで、常に努力を惜しまないはずです」と、弟のセパラ・アマラスリヤも語る。

アマラスリヤ会長は、1979年にスリランカで行われた視力検査のため、ラルフ・ライナム国際会長（レイをかけた人物）と協力した

バングラデシュにあるライオンズの施設で、白内障手術を受けた患者を見舞うアマラスリヤ会長

アマラスリヤ会長の社会に対する責任感は、ライオンズとしての役割を超えて、職業や私生活にも及んでいる。彼の銀行では、大学の成績優秀者に奨学金を提供し、必要に応じて学費を負担している。また、クシュラニ夫人は会長の積極的な支援の下に、ライオンズクラブを通して身体障害児や精神障害児を支援する広範な慈善事業を行っている。「彼は民間の組織のために働いてきましたが、民間人らしからぬところがあるようです」と夫人は言う。「人間は地球上に占める空間の賃貸料を支払わなければならないと、彼はいつも感じていたのです」

未来の構築

会長と夫人は長年、ガレの浜辺の散策を楽しんでいた。忙しい毎日の中で、そこにくつろぎを見いだしていたのである。しかし数年前、この散歩は突然終わりを告げた。「津波の後、浜辺は私にとって魅力を失って

津波の後、被災した家族を訪ねるアマラスリヤ会長。住居はライオンズによって提供された

しまいました。今では時間があったとしても、私たちが海岸に降りることはありません」と夫人は言う。

2004年の津波に襲われたスリランカでは、4万人の国民が命を落とし、12万軒の住居が破壊された。その時、コロンボにいたアマラスリヤ会長は、次のように語る。「それは信じられない光景でした。線路は捻じ曲がり、ボートは陸に打ち上げられ、車は海を漂っていたのです。私は大きな衝撃と無力感に襲われました」

ライオンズは直ちに支援に乗り出し、食料や避難所を提供した。世界中のライオンズからの寄付を受けて、またLCIFと協力したスリランカのライオンズによって、1459件の住居が建設され、職業訓練が行われた。「人々は今、未来に希望を持っています。それは彼らにとって、非常に重要なことなのです」と会長は語る。

津波は、ライオンズの絶対的な必要性を立証する出来事となった。ライオンズクラブの強化と成長を保証するため、アマラスリヤ国際会長は新たな決意を固めている。「変化への挑戦」というテーマに基づく彼のプログラム（18ﾍﾟｰｼﾞを参照）は、ライオンズが直面する課題を見つめ、その解決策を示したものである。

「国際協会は偉大なる組織であり、そのことに疑いはありません。しかし、21世紀の要請を満たすためには、ある種の変化が必要です。国際協会は、外界の急激な変化から立ち遅れているように感じられます」

「内部変革を行わない限り、国際協会と21世紀の関係は絶たれてしまいます。その結果、若い人々を入会させることは不可能となるでしょう。若者にとって、ライオンズは常に年長者の組織です。従って、ライオニズムには参加する価値があると、彼らが考えていないことは明らかです」

アマラスリヤ会長はこれを覆すために、例えば例会の形式を変えること、ピクニックを主催すること、サイバー・クラブの結成を考えることなどを求めている。

「ライオンズのブランド名を再生させるため、私たちには内部変革が不可欠です。また、人々が官僚的な手続きや手順、見せかけの権威に縛られることのないよう、柔軟性が必要です。若者は事業の実践を求める傾向が強く、会議に長い時間を費やしたくはないようです。そのため、私は国際協会を大きく変える必要があると感じるのです。私たちは、会員に内部変革を呼び掛けることで、ライオンズの新たなイメージを構築しなければなりません。それは、力強く活気に満ちた21世紀の組織としてのイメージです」

未来は自ら作り上げるものである。彼はその信念に基づき、「未来は人によって異なるのではないでしょうか。誰もが同じ行動をとり続けることは不可能です」と語る。

「私たちにとって、未来は過去よりも重要なのです」

シカゴ国際大会の閉会式で後藤隆一国際理事と重松良次国際理事が就任した。メンバーシップや指導力育成の分野で活躍してきた後藤理事と、大阪国際大会ホスト委員会事務局長として困難な仕事を成し遂げた重松理事。これまでの仕事ぶりには国内外から厚い信頼が寄せられている。活躍が期待される国際派のお二人に、本誌・砂田繁雄委員長と菊池清二編集長が聞いた。

YE、大阪国際大会で得た感動と経験

――まずこれまでのライオンズでの活動について伺います。後藤理事は30歳、重松理事は32歳と若くして入会されましたが、最も印象に残っているのはどんなことですか？

後藤　私は地区、複合地区で長くYE委員会の仕事に携わりました。初めて所属した地区の委員会がYEで、その時にノルウェーで行われた障害者向けユースキャンプにYE生を派遣するため、選考の段階から担

豊富な知識
生かした活躍
新国際理事

重松良次
2007～09年国際理事
大阪府・茨木ライオンズクラブ

当しお世話したんです。ライオンズはこんなこともしているんだと強い印象を受けました。クラブの活動では、以前は額に汗するアクティビティが多かったと感じます。汗をかいた成果をメンバー同士で共有出来た。今もそうした活動はあるでしょうが、少なくとも私の周囲では減ってきている。ライオンズの原点に立ち返る必要を感じます。

重松　後藤さんと知り合ったのはYEの仕事を通じてでしたね。成田空港で来日生が見つからなくて一緒に走り回った。私もYEを長年担当して、苦労は多かったですが、いろんな勉強をさせてもらいました。私にとって最も印象が強いのは、２００２年の大阪国際大会です。国際理事に推して頂いたのも、亀井良次ホスト委員長の下で事務局長を務めたことが、ある程度評価されたのではないかと思います。大会前の3カ月間は稼業もせずに事務局に詰めっぱなしでした。大変でしたが、世界中にライオンズの知己を得て、楽しく、やりがいのある仕事で、35年のライオン歴の中で忘れられない経験です。

ライオンズ困難の時代に新しいパワーを

——これまでの豊富な経験を通じて、ライオンズクラブの現況をどのように認識しておられますか。

後藤　この数年はライオンズのどのレベルでもメンバーの減少が問題となって、その維持、増強の必要性が言われています。それを含めて、今はライオンズ困難の時代だと強く感じます。しかし後ろ向きなわけではなく、クラブ、地区、協会でいろいろな工夫がされている。それが必ずしもいい方向に動いていないことが問題だと思います。

重松　結果的に会員減少の要因にもなりますが、私は高齢化がいちばんの問題だと感じますね。先ほど後藤さんが、汗をかくアクティビティが減っているとおっしゃったが、その一因は高齢化にあるでしょう。平均年齢が70歳代というクラブも出てきていますが、そうなると若い世代を迎え入れるのは難しい。30代、40代の人たちが1人や2人入っても話が合わずにクラブに馴染めない。5人ぐらいまとまって入ればいいでしょうが、それも難しい。私は新しいクラブを作ることが解決の早道だと思います。若い人たちだけの元気のあるクラブが出来てきたらいい。

後藤　本来であれば、年齢や性別など多様化していくことで活性化が図られるべきですが、それが立ち遅れている。女性会員は重松さんの地区は一割を超えていますし、増えてきてはいますが、まだまだ少ない。40代、50代の構成比も下がっている。日本のライオンズの成長期には30代、40代の会員が大勢いたはずですが、そうした層が今は少ない。ライオンズ自体が変わっていかないと、女性や若い人たちに受け入れてもらえないのではないでしょうか。

重松　335-B地区には9年前に初めて女性クラブが出来たんですが、当時は反対もありました。それが現在まで増え続けています。地区内に現在９００人、約12%が女性会員なんですが、圧倒されるぐらいのパワーがある。奉仕に関しても女性は積極的ですし、適性があるんじゃないでしょうか。女性や若い人たちの新しいパワーを獲得していかないと、これから成長は難しいと思いますよ。

後藤　このところ歴代の国際会長が女性と若手の会員増強を具体的に打ち出して、アマラスリヤ新国際会長もかなり力を入れておられる。ただ、年長の会員がいるのが悪いわけではなく、継承する努力をしなくてはいけないということです。30年後を考えたら、今と同じ会員構成では立ちいかないのは目に見えている。心配するだけで手を打たずにいたら、平均年齢は上がる一方でしょう。次の時代をどうするか意識して工夫しているクラブは、うまくいっています。私の地区では、二世が入会した際に親が70歳以上なら親の会費を半額にしているクラブがあります。創意工夫を心掛けるクラブは元気です。重松さんのクラブも非常に元気ですよね。

重松　自分のクラブの話で恐縮ですが、うちは会員が１１０人おりまして、若い会員もうまく混じり合っていると思います。これは悪くとれ

ば派閥と言われるかもしれませんが、私はグループを作ることがポイントになると考えています。私のクラブでも年輩の会員同士、若い会員同士でグループが出来ていて、それぞれ固まりになることでクラブに強さが生まれています。例えばゴルフの好きな人、旅行の好きな人などいろいろなジャンルでグループを作る。それがいくつも生まれれば、全体のまとまりが強くなります。これは単一クラブだけでなくゾーン単位でも、もっと会員同士が交流するグループが出来たら活性化になると思います。

前進するために必要なもの

――会員増強ではこれまでさまざまなプログラムが打ち出されましたが、必ずしも成功しているとは言えません。なぜだとお考えですか。

後藤　国際会長のプログラムとしては最近の「インパクト」や「ミッション30」、今期は「20K」がありますが、それを表面的に聞いてやろうとしたのでは難しい。それをどう消化して実行していくかだと思います。国際協会はインターナショナルではありますが、どうしてもアメリカ的な面がある。例えば会員増強関係の資料が豊富に用意されていますが、日本語に訳されたものを読むと、残念ながら我々にはとっつきにくい部分があるのも確かです。それだから出来ないと言うのではなく、その理念をクラブや地区でどう生かしていくか考えることが必要でしょう。今打ち出されているキャンペーンで、1950年代ぐらいに生まれたアメリカのベビーブーマー世代を対象にしたものがありますが、これは日本の社会にもうまく当てはまりますね。団塊の世代以下とほぼ年代が重なりますから、うまく消化すれば活用出来るんじゃないでしょうか。

重松　私がガバナーの時はインパクト・プログラムでエクステンションを推進していました。私は新結成クラブに30万円の補助金を出したんです。クラブ旗などの備品を用意する当初予算だけで、だいたいそれぐらい掛かります。この補助金によってクラブ結成の動きに弾みがついて、実質的に女性クラブ11クラブを含む14クラブのエクステンションを手掛けることが出来ました。他にも、40代だけを集めてクラブを作ろうということもしたんです。クラブの枠を超えて、とにかく40代の会員候補を引っ張ってこようと、何度か会合を持って一生懸命育てましたが、反対にあって実現しなかった。若い人たちが集まって、いろんな意見が活発に飛び交っていたんですけどね。

後藤　反対するのは簡単なんですね。工夫するのが大事であって、よほど極端でない限りは多少の反対があってもやってみた方がいい。クラブでも、地区でもそうです。やってみなければ前進はない。反対論だけでなく別のアイデアが出てくるならいいけれども、ただ否定するのでは先がないですよ。

教育とリーダー育成の重要性

重松　いちばん大事なのはよく話し合うことではないでしょうか。議論が出来る場であることだと思いま

す。それが活性化につながってくる。現在進めているCSFⅡでも、勉強会を開いてその意義を話し合ってみたらいい。コミュニケーションと教育ですね。例えばプロトコールでも、地区の役員にも分かっていない人が多い。そういう基本となるところをきちっと教えていくべきでしょう。

後藤　27年前に入会した頃、先輩に「我々は篤志家ではない。お金も時間も限られた中から社会のために奉仕する。有り余っているものを施すような立場にはない」という話をよく聞かされました。日本にライオンズが出来て55年になり、クラブ結成からの年数に多様化が進んでいる。それが知識が減っていく理由になっているのではないかと考えています。どのクラブもチャーターを受けるまでにすごく勉強しますね。チャーター・メンバーの数は年を経るごとに減っていきますから、いわゆるニュー・メンバーの比率が上がる。そうすると、基本的な知識を吸収する機会をクラブが意識して作らないと、会員の知識は浅いままになってしまいます。ライオンズは組織として非常にしっかりしていますが、組織がどういうものか、規則がどうなっているかという正しい知識を、なるべく多くのメンバーが持っていたい。規則がすべてではありませんが、その上で議論をしないと、積極的に前進していこうという動きがつぶされたり、誤った方向に進んだり、声の大きい人の論が通ったりする。それによって、物言わぬ常識派のライオンが去っていくようなことは避けなければならない。

重松　私はゾーン・チ

重松良次 新国際理事 プロフィール

所属クラブ：大阪府・茨木ライオンズ$_{グラ}$
生年月日：1939（昭和14）年9月23日（67歳）
現職：㈱関西進学セミナー代表取締役／進学塾経営

主なライオン歴：
1972年10月　茨木ライオンズ$_{グラ}$入会
1990-91年度　クラブ会長
1995-96年度　ゾーン・チェアパーソン
1998-99年度　キャビネット幹事
1999～2002年 第85回ライオンズクラブ国際大会ホスト委員会事務局長
2002-03年度　複合地区ガバナー協議会議長
　地区ガバナー

国際親善大使賞
累進メルビン・ジョーンズ・フェロー

後藤隆一 新国際理事 プロフィール

所属クラブ：千葉県・柏中央ライオンズ$_{グラ}$
生年月日：1949（昭和24）年6月10日（58歳）
現職：㈱テスコ代表取締役／語学学校経営

主なライオン歴：
1980年2月　柏中央ライオンズ$_{グラ}$入会
1986-87年度　クラブ会長
1993-94年度　ゾーン・チェアパーソン
1994-95年度　リジョン・チェアパーソン
2001-02年度　地区ガバナー
2005-06年度　ミッション30国際チームリーダー
2002、03、04、05年　上位ライオンズ・リーダーシップ研究会講師
2005年　地区ガバナー・エレクト・セミナー・グループリーダー

累進メルビン・ジョーンズ・フェロー

エアパーソンの働きが非常に重要だと考えているんです。ゾーン・チェアパーソンが意欲を持って積極的に動けば、必ずいい方向に変化していきます。そのためにも、モチベーションの高い40代、50代の若いリーダーにどんどん出てきてほしい。国際理事にしても、外国からは若い理事が出ています。若い人を育てていくためにも、しっかりとした教育を行うことが必要です。

――国際協会では上位リーダーシップ研究会など、リーダー育成に力を入れています。各地区でもセミナーや研修会が開催されて、ライオン誌発行の「ライオンズスクール」シリーズも活用して頂いていますが、地区によって取り組み方に温度差があるようです。

後藤　そうした研修を密度濃く行っている地区とそうでない地区では知識に差があるし、地区運営にも違いが出ているように見受けられます。国際協会はさまざまなレベルの研修に補助金を出していますし、積極的に実施して頂きたいですね。

理事会の一員、日本との橋渡し役として

――国際理事には国際協会と日本の橋渡しという役割も期待されますが、国際理事としての抱負をお聞かせ頂けますか。

後藤　日本のクラブあるいはメンバーに国際的な組織の一員であることを再認識し、友好の輪を日本の外にも広げて頂きたい。どうも我々には日本の中から外を眺めているようなところがある。よく「協会にもの申す」と言われますが、これでは一方通行でしかありません。国際的な見地から協会あるいは自分たちのクラブを見てもらいたい。そのために少しでもお役に立てればと思います。それから橋渡しということからは外れますが、国際理事会の構成員として、国際会長を始め執行役員の動きを慎重に見ながら、協会発展のために尽くしていきたいです。我々はOSEAL（オセアル）（東洋・東南アジア）選出の理事ですから、OSEALのためにという意識も忘れずにいたい。会員数が少なく理事を送り出せない国々のことも考えなければならない立場を、日本の皆さんにはご理解頂きたいと思います。

――このところ国際大会に日本からもっと多くの代議員を送ろうという動きが広まっています。国際性を肌で感じるには、国際大会やフォーラムがいい機会になるでしょうか。

後藤　そうですね。ただ大会に行くだけでなく、いろいろなプログラムに参加してもらいたいです。

重松　代議員が投票の義務をきっちり果たすためには、クラブが派遣態勢を整えることも重要ですね。

――重松理事はどのような抱負をお持ちですか。

重松　私は国際理事会の情報を日本の皆さんに伝達する連絡役が出来たらうれしいと思っています。国際会長の方針や理事会の動きが、出来るだけ素早くクラブ・レベルにまで伝わるように、風通しをよくしていきたい。大阪国際大会ホスト委員会の事務局長の職務を通じて、協会中枢のリーダーや本部スタッフと接する機会にも恵まれましたから、そうした人脈をうまく生かしていければと考えています。日本においてはまず、八複合地区の議長の皆さんと出来るだけフリートーキングの時間を作って会話をしていくことですね。会議の中で報告するだけでなく、コミュニケーションを緊密にしていきたいです。

――国際理事会では今、ライオンズクラブの将来を見据えた大幅な改革が議論されています。お二人の理事も大いに貢献してくださるものと期待し、ご活躍をお祈り致します。

2007-08年度

複合地区ガバナー協議会議長紹介

今年度議長に就任された8人の抱負、方針、重点課題などを紹介する。
略歴は所属クラブ、ライオンズ入会年、主なライオン歴、職業、年齢の順。

330複合地区議長　古郡　保郎

ふるごおり　やすろう：神奈川県・藤沢湘南ライオンズクラブ。79年入会。93年度クラブ会長。01年度ZC。03年度RC。06年度地区ガバナー。累進MJF。㈱キープ代表取締役。70歳。

議長、更には議長連絡会議の世話人という大役を仰せつかり、誠に光栄の至りです。昨年は、個の尊重と調和の精神、原点回帰を掲げ、地区ガバナーとしての1年を過ごしました。大所帯だからこその持ち味、多彩な知恵や活力こそが混迷の時代を乗り切る術と信じ、今後とも立場や役割こそ違え、今まで以上に多くの方々と大いにコミュニケーションを図り、一つひとつを丁寧に積み重ねてゆく所存でおります。

重責を厳粛に受け止め、国際理事並びに議長各位のご助言、ご協力を賜りながら、各事業の着実な前進と日本ライオンズの発展のため、全身全霊を傾ける所存です。

332複合地区議長　松田　則保

まつだ　のりやす：福島県・保原ライオンズクラブ。71年CM。78年度クラブ会長。84年度ZC。91年度RC。04年度地区ガバナー。累進MJF。宗教法人仙林寺住職。73歳。

複合地区年次大会で皆様の支持により議長に推挙頂きました。生まれは秋田県湯沢市で、1957年に福島県保原町仙林寺住職となり、早50年になります。以来、青少年健全育成県民会議リーダーなど、青少年健全育成に取り組んで参りました。特に69年に保護司を拝命、不幸にして罪を犯した青少年の更生に心血を注ぎました。

「東北は一つ」を合言葉に、真の友情と相互理解による地域に根ざした奉仕活動をしたいと思っています。「友愛と奉仕で築こう平和な社会」をスローガンに掲げ、意欲に満ちたライオンズ活動に汗を流していく所存です。

331複合地区議長　秋庭　一富

あきば　かずとみ：北海道・札幌エルム・ライオンズクラブ。84年入会。96年度クラブ会長。01年度RC。06年度地区ガバナー。累進MJF。北幹警備保障㈱代表取締役会長。66歳。

議長に推挙され、誠に光栄であります。道内経済が依然として厳しい中、ライオンズもまた克服すべき問題が山積しています。この困難な時期、重責を与えられましたが、ちゅうちょせず挑戦して参ります。

まず、3地区ガバナーとの連携を緊密に保つと共に、それぞれが存分に活動出来る環境づくりに努めます。今期の活動の中心もCSFⅡと会員増強となることは周知の通りですが、事業の成功は目標への数字をただ羅列するのではなく、メンバー各位の奉仕に対するモチベーションの向上が基盤になくてはなりません。この点を訴え、「ウィ・サーブ」の輪が大きく拡がるよう、活動して参ります。

333複合地区議長　林　護

はやし　まもる：千葉県・松戸ライオンズクラブ。80年入会。00年度クラブ会長。01年度ZC。02年度RC。04年度地区ガバナー。累進MJF。オフィス・リンゴー代表取締役。67歳。

今年度から333‐B地区が栃木県と茨城県とに分割され、333複合地区は5準地区の新たな体制となりました。国際協会の基本方針に従って、複合地区と準地区の融和と協調、そして運営を円滑ならしめるために、各地区ガバナーの皆様に助力して参ります。複合地区の盤石な基礎を踏まえ、私は「共生の智は奉仕の魂（The true wisdom of symbiosis is the heart of service）」をテーマとしました。お互いに、ライオンズとして生きるための知恵とは、奉仕することが基本です。この奉仕の心がクラブの発展、地区の発展、更には国際協会の発展につながると信じています。

経歴及び本文中で使用している略語は下記の通り。
CM＝チャーター・メンバー
CSF Ⅱ＝視力ファーストⅡキャンペーン
MJF＝メルビン･ジョーンズ･フェロー
RC＝リジョン･チェアパーソン
ZC＝ゾーン･チェアパーソン

334複合地区議長　曽我　一義

そが　かずよし：愛知県・名古屋イースト・ライオンズクラブ。84年入会。96年度クラブ会長。04年度RC。06年度地区ガバナー。累進MJF。曽我ガラス㈱代表取締役社長。68歳。

議長に就任する運びとなり、光栄に存じますと共に、重責を身に染みて感じております。国際協会より提言される21世紀のライオニズムの実践に、地区ガバナーの皆様と力を合わせ、リーダーの役割を果たす所存です。

第91回バンコク国際大会や複合地区年次大会への出席、MERL運動への一層の理解と参加、新設された家族会員の奨励など、当面進めるべきテーマは目白押しです。

スローガンは「情熱と探究」。「すべての可能性は情熱の中から生まれる」の言葉を実践し、無限の可能性を秘めたライオニズムの探究に、複合地区全メンバーの皆様と共にまい進する所存です。

335複合地区議長　小林　登

こばやし　のぼる：兵庫県・姫路白鷺ライオンズクラブ。75年入会。90年度クラブ会長。97年度ZC。06年度地区ガバナー。累進MJF。小林産業㈱代表取締役。71歳。

335複合地区第53回年次大会において、地区ガバナーに引き続き今年度議長を拝命し、その責任の重大さに身の引き締まる思いであります。

もとより浅学非才ではございますが、現、元国際理事を始め皆様方のご協力を頂きながらABCDの4人の地区ガバナーと緊密な連携を図り、CSFⅡやライオンズクエストなどの国際プログラムを推進していきます。また、準地区内の更なる調和と、より一層の団結を目指すと共に、日本ライオンズの発展のために全力で取り組む所存でございます。

336複合地区議長　加計　邦夫

かけ　くにお：広島デルタ・ライオンズクラブ。70年入会。90年度クラブ会長。97年度ZC。99年度RC。06年度地区ガバナー。累進MJF。日新林業㈱監査役。73歳。

議長にご推挙頂き、誠に光栄に存ずると共に重責を噛み締めている今日この頃です。選出についての会則が改正されてまだ3年。その有効性については、準地区、全日本レベル共に勉強しなくてはならないでしょう。体制や組織の整備も急がれる所です。当複合地区では地区ガバナーと十分に意思疎通を図り、強固な連携を築きたいと思います。他の複合地区の優れた点や特性を理解した上で協働・協調してこそ、日本ライオンズの発展を期することが出来ると思います。ライオンズ道徳綱領を日々の物差しとして、複合地区の活性化を目指すと共に、全国の皆さんとの友愛、相互理解を図りたいと願っています。

337複合地区議長　不老　安正

ふろう　やすまさ：福岡県・太宰府ライオンズクラブ。82年入会。94年度クラブ会長。97年度ZC。98年度RC。06年度地区ガバナー。累進MJF。㈱かさの家代表取締役。63歳。

今年度、議長にご推薦頂き、昨年度の地区ガバナーに続いて、更なる責任の重さを実感しています。これからは、複合地区運営管理を通して、各地区ガバナーとのコミュニケーションを密にし、クラブ成長への環境づくりに取り組んで参ります。そのためにも会員一人ひとりが情熱を燃やし、各クラブが一丸となって、現代社会の求める「感動ある奉仕活動」を実行していくことが、最も必要と考えております。

今後は、複合地区の代表として、よりグローバルな視点も持って、国際理事並びに各複合地区議長の助言を頂き、日本ライオンズの発展のために最善を尽くす所存です。

NEWS CASSETTE

ライオンズ ニュースカセット

スペシャルオリンピックス会長に人道主義大賞授与

2007年のライオンズ人道主義大賞は、スペシャルオリンピックス会長のティモシー・シュライバー氏が受賞した。

7月6日のシカゴ国際大会閉会式で授賞式が行われ、ジミー・ロス国際会長から盾と賞金20万ドルが授与された。スペシャルオリンピックスは知的発達障害を持つ人々にスポーツの機会を提供する団体。現在160カ国で活動を展開し、250万人のアスリートが参加している。ライオンズクラブとスペシャルオリンピックスは協力して2001年にオープニングアイズ・プログラムを開始し、世界各地のスペシャルオリンピックスの大会でアスリートの眼科検診を実施している。

シュライバー会長はワシントンDC・スペシャルオリンピックス・ライオンズクラブのチャーター・メンバーでもある。

シカゴ国際大会における代議員投票の結果

ボストン大会の代議員登録数は全体で4860人(補欠321)、日本は578人(同10)だった。最終日の7月6日に行われた代議員投票の結果は以下の通り。国際会則及び付則改正案4項はいずれも3分の2以上の賛成で可決。国際第2副会長には、ライオンエーバハルト・J・ヴィルフス(ドイツ)が当選。2007~09年国際理事選挙では、日本のライオン後藤隆一、ライオン重松良次を含む17人の国際理事が選出された。

日本の国際理事会構成員と所属委員会

7月6日、シカゴ国際大会終了直後に2007年度最初の国際理事会が開催され、各委員会の構成が発表された。日本選出の2年目理事、谷野徹国際理事はメンバーシップ委員会(副委員長)、1年目理事の後藤隆一国際理事はメンバーシップ委員会、重松良次国際理事は大会委員会とLCIF執行委員会に所属する。また国際理事会アポインティーに福井正憲元国際理事(京都府・山城ライオンズクラブ)が指名され、大会委員会に所属することが決まった。

ケニアの会員がLCIFに過去最高額の献金

ケニアのライオンカヌバイ・バブラ（モンバシ・プワニ・ライオンズクラブ）が、LCIFへの個人献金としては過去最高額となる54万ドルをCSFⅡに指定献金することを表明し、シカゴ国際大会第2回総会で表彰された。ライオンバブラはナイロビ・ロレシャにあるライオンズ視力ファースト眼科病院や、モンバサにあるライオンズ眼科・血液センターの支援に尽力する一方、ケニアにおける白内障アイ・キャンプの運営に貢献している。

シカゴ国際大会でのCSFⅡ表彰

7月5日に開催されたシカゴ国際大会第2回総会でCSFⅡ関係の表彰が行われた。表彰を受けた日本の地区、クラブ、会員は以下の通り。

地区別の献金額で世界トップの334‐A地区（愛知県）。各エリアで会員1人当たりの献金額がトップのモデルクラブの表彰では、V1～V4（日本）から福岡玄海ライオンズクラブと福岡花ライオンズクラブ。リードギフト（10万ドル献金）のライオン大澤京子（埼玉県・大宮シニア・ライオンズクラブ）とライオン松井和子（福岡花ライオンズクラブ）。

シカゴ国際大会でのMJF関係表彰

7月5日、シカゴ国際大会で開催されたメルビン・ジョーンズ・フェロー（MJF）昼食会で各種表彰が行われた。表彰を受けた日本のクラブ、会員は以下の通り。

100％MJFクラブの愛知県・名古屋クオリティ・ライオンズクラブ、大阪府・茨木ライオンズクラブ（2回目）、200％MJFクラブの愛知県・名古屋サウス・ライオンズクラブ。10万ドル以上を献金した会員に贈られるヒューマニタリアン・パートナー賞ブロンズ（10万ドル）のライオン大澤京子、ライオン曽我一義（愛知県・名古屋イースト・ライオンズクラブ）、ライオン松井和子、ライオン迫幸治（沖縄県・那覇守礼ライオンズクラブ）。

2007年国際コンテスト結果

シカゴ国際大会で各種国際コンテストの結果が発表され、日本からはニュースレター（会報）クラブ部門の1位を静岡県・浜松ライオンズクラブが獲得した他、友好バナー・クラブ部門で大阪府・南大阪みささぎライオンズクラブが佳作に選ばれた。コンテストには友好バナー、会報、写真、PRアイデア、交換ピン、ウェブサイトの各部門がある。国際コンテストの全結果は国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）のオンライン国際大会に掲載している。

インターナショナル・パレード・コンテスト結果

7月4日に行われたシカゴ国際大会のインターナショナル・パレード・コンテストで、日本はユニフォーム部門で2位に選ばれた。各部門の1位は左記の通り。同コンテストの全結果は公式ウェブサイトのオンライン国際

大会に掲載。

▼第1部：フロート＝1複合地区（アメリカ・イリノイ州）／バンドⅠ＝5複合地区（アメリカ・ノースダコタ州、サウスダコタ州、カナダ・サスカチワン州）／バンドⅡ＝30複合地区（アメリカ・ミシシッピ州）／均整行進隊＝25複合地区（アメリカ・インディアナ州）／ユニフォーム＝306複合地区（スリランカ）▼

第2部　：バンド＝1複合地区（アメリカ・イリノイ州）／均整行進隊＝20複合地区（アメリカ・ニューヨーク州、イギリス領バーミューダ諸島）

会議録

5月 6月 主な議題だけをまとめました

複合地区IT委員長連絡会議

第3回会議は5月23日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①本年度経過報告、②ライオンズ議長連絡会議ホームページ、③各複合地区のIT状況報告、④次年度への引き継ぎ事項について協議した。

②作成の諸経費見積もりを取り次年度へ申し送る、他。

複合地区ガバナー協議会議長連絡会議

第10回会議は6月5日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①次年度への引き継ぎ事項の検討、②各連絡会議・委員会報告について協議した。

①9項目の引き継ぎ事項をまとめた。

引き続き開催された現・次期協議会議長連絡会議では、①出席者紹介、②次年度への申し送り事項について協議。

次期協議会議長連絡会議では、①人事、②会議及び国際理事候補者選挙管理委員会日程、③議長連絡会議への出席について協議した。

①世話人に古郡保郎次期議長（330）、副世話人に加計邦夫次期議長（336）を互選。

ライオン誌日本語版委員会

第11回委員会は6月7日、ライオン誌日本語版事務所で開催され、①6月号出来、②7月号記事内容の確認、③8月号以降台割（案）と主要記事予定、④ウェブサイト関連、⑤オンライン報告システムServannA、⑥創刊50周年関連、⑦その他について協議した。

③9月号THEMEは「薬物乱用防止」に変更、他。

複合地区YE委員長連絡会議

第6回会議は6月13日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①夏期交換、(A)派遣生、(B)来日生、②YE書籍、③YE全体の申し送りについて協議した。

①最新の派遣、来日人数など情報確認、他。

環境写真コンテストの結果発表

シカゴ国際大会で2007年環境写真コンテストの結果が発表され、気象部門で大橋周次（奈良県・橿原ライオンズクラブ）の作品が最優秀賞を受賞した。同コンテストは風景、動物、植物、気象、特別テーマの5部門があり、大会サービス・センターにおける大会登録者の投票で最終選考が行われ、大賞と各部門の最優秀賞が選ばれる。全結果と受賞作品は公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）のオンライン国際大会に掲載。

会員増強を促進する「チーム20K」

マヘンドラ・アマラスリヤ新国際会長は今年度、「チーム20K」を組織して世界で2万人

の会員純増を目指す（18ページ「国際会長プログラム」参照）。チーム20KはA・P・シン国際委員長（元国際理事／インド）が率いる国際チーム20Kと各複合地区の20Kコーディネーターで組織され、MERLチームと協力しながら活動する。国際チーム20Kの委員には地区ガバナー・エレクト・セミナーのグループリーダーを務め、今期地区ガバナーのメンター（指導者）となる29人が就任。日本からは山浦晟暉元330複合地区議長（東京新宿ライオンズクラブ）が任命された。

国際理事会で承認された日本へのLCIF交付金

6月の国際理事会でLCIF一般援助交付金45件211万7754ドルの交付が承認された。うち日本は6件15万3342ドル。▼330・B地区＝薬物乱用防止プログラムの備品8535ドル▼333・B地区＝薬物乱用防止プログラムの備品1万4457ドル▼333・D地区＝カンボジアに小学校建設2万1000ドル▼334・A地区＝障害者のための職業訓練施設拡張4万2000ドル▼334・E地区＝血液輸送車2台の設備に追加交付2万6250ドル▼336・B地区＝モンゴルにヘルス・クリニック建設4万2000ドル

各複合地区年次大会で八複合地区の共通案件が可決

330～337複合地区の第53回複合地区年次大会に、共通案件として提出された複合地区会則改正案2項、国際理事立候補者推薦手続規則改正案、国際第2副会長立候補者推薦手続規則改正案各一項は、336複合地区を除く七複合地区ですべて可決された。336複合地区では複合地区会則の複合地区ガバナー協議の構成員と議長選出に関する改正案のみを否決。

新結成／名称変更／合併クラブ

■新結成クラブ

東京イースト▼結成順位／3652▼2月19日結成▼高木一郎会長▼事務局／墨田区緑3-15-11 アムフラット801号（〒130-0021）TEL03-5625-2018▼スポンサー／東京上野東

千葉県・市川パインツリー▼結成順位／3653▼6月2日結成▼高木敏子会長▼事務局／市川市八幡3-27-5 正栄ビル4階（〒272-0021）TEL047-322-0192▼スポンサー／市川

大分梅花▼結成順位／3654▼6月28日結成▼谷野久会長▼事務局／大分市金池町3-1-10吉村ビル205（〒870-0026）TEL097-533-6970▼スポンサー／鶴崎臨海

■クラブ名称変更

東京都・小金井東京→東京小金井
東京都・小平→東京小平
東京中野剣道→東京剣道
群馬箕郷→高崎北

■合併クラブ（合併前のクラブ名）

香川県・大川郡→東かがわ
東京中央（東京神田／東京本郷）
神戸東灘マリーン（神戸東灘／神戸マリーン）

訃報

ライオン清水武男（茨城県・水戸西）6月4日死去、95歳。71年入会。80年度333-B地区ガバナー。

ライオン大角正治（北海道・函館巴）6月13日死去、72歳。72年入会。04年度331-C地区ガバナー。

ライオン内田清一（京都鴨川）6月14日死去、78歳。72年入会。04年度335-C地区ガバナー。

日本ライオンズクラブ クラブ数・会員数

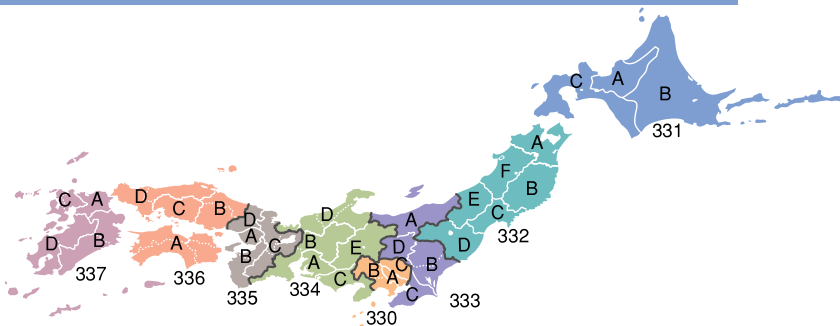
世界のライオンズ

2007.4.30.国際協会集計	■クラブ数	■会員数	期首からの増減
ライオンズ国または領域　200	45,053	1,312,016	10,363

日本のライオンズ

2007.5.31.各キャビネット事務局集計		■クラブ数	期首からの増減	■会員数	期首からの増減
330-A	東京	207	0	5,488	-11
330-B	神奈川・山梨・東京	193	2	5,686	-8
330-C	埼玉	104	-2	2,945	26
330	計	504	0	14,119	7
331-A	北海道（道央）	77	0	2,868	33
331-B	北海道（道北・道東）	96	-2	2,986	-77
331-C	北海道（道南）	62	0	2,098	-59
331	計	235	-2	7,952	-103
332-A	青森	69	0	2,130	10
332-B	岩手	56	-1	1,853	-30
332-C	宮城	82	0	1,761	-70
332-D	福島	79	0	2,273	-9
332-E	山形	57	1	2,013	4
332-F	秋田	55	-1	1,562	-35
332	計	398	-1	11,592	-130
333-A	新潟	81	2	3,066	97
333-B	茨城・栃木	136	-1	4,240	-83
333-C	千葉	130	2	3,607	24
333-D	群馬	56	0	2,145	-42
333	計	403	3	13,058	-4
334-A	愛知	118	0	6,001	36
334-B	岐阜・三重	87	-1	4,135	34
334-C	静岡	84	1	3,603	57
334-D	富山・石川・福井	99	1	4,436	82
334-E	長野	55	0	2,416	47
334	計	443	1	20,591	256
335-A	兵庫（東）	110	0	3,034	-16
335-B	大阪・和歌山	204	1	7,249	41
335-C	滋賀・京都・奈良	123	0	4,714	-28
335-D	兵庫（西）	69	-1	2,398	-38
335	計	506	0	17,395	-41
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	155	-1	6,532	32
336-B	鳥取・岡山	102	0	3,848	-57
336-C	広島	106	0	4,177	51
336-D	島根・山口	110	1	3,845	-6
336	計	473	0	18,402	20
337-A	福岡・長崎	120	1	5,105	75
337-B	大分・宮崎	88	-2	2,913	-26
337-C	佐賀・長崎	84	0	3,324	-12
337-D	熊本・鹿児島・沖縄	145	0	4,655	-8
337	計	437	-1	15,997	29
総計		3,399	0	119,106	34
世界のライオンズの		7.5%		9.1%	

CAMPAIGN SIGHTFIRST II
LIONS' VISION FOR ALL

CSF Ⅱ Report

車いすダンス・パーティーで愛と勇気と資金獲得

北海道・滝川中央ライオンズクラブ

車いすダンスで心をつなぐ

滝川中央ライオンズクラブは2006年9月17日、「'06　心ひらいて皆んなで踊ろう。車いすダンス」を開催した。この継続事業、毎年約千人が参加する人気のチャリティー・パーティーも4回目を迎えた。3回目までは、より多くの人々に車いすダンスを知り楽しんでもらいたいと、獲得資金はダンス用車いすの購入に充てていた。今回はクラブ25周年記念として、ライオンズクラブが実施するCSFⅡを市民らにPRし、この人道的活動に理解を得て参加してもらおうということになった。

車いすダンスは健常者と車いす使用者がペアで踊る。このスタイルはドイツで考案され、日本には93年に導入された。障害者のリハビリテーションや高齢者のスポーツとしての効能に加え、健常者と心をつなぎ誰もがダンスを通じて「人としての生きがい・ふれあい・生きる喜び」を実感出来る、真のノーマライゼーションを追求している。

市民の協力で生まれた成功

パーティー当日は1200人が来場した。車いすによるタンゴ、サンバ、チャチャチャなどの華麗な舞いに加え、歌謡ショー、エアロビクスダンス、手話ダンスなども披露され、会場は熱気に沸いた。特別ゲスト、第1級の視覚障害者であり札幌市視覚障害者福祉協会ダンス部会員の滝田弘子さんと、インストラクター池脇利昭氏による息の合った美しいワルツには、会場からはホウというため息と共に、「本当に目が悪いの?」というどよめきが起こった。

この大規模な催しを実施するにはクラブ・メンバーだけでは手に余る。毎年市内の國學院短期大学福祉科の生徒がサポートしてくれている。学校ではこれを体験学習として単位に参入しているという。同事業は青少年教育の面でも地域に貢献しているのだ。

このCSFⅡ事業は市の広報や新聞、地方ラジオでも紹介され、ライオンズクラブのPRとしても大きな効果があった。CSFⅡの趣旨に賛同して大口献金を申し出てくれた市民もいた。

「多くの方に協力頂き、最終的に67万7807円の収益を上げることが出来ました。でも金額の多少にかかわらず嬉しいのは、市民の皆さんがライオンズクラブの活動を理解してくださったということです。ライオンズの視力ファースト事業を通じて、滝川市民の善意が海を越え、失明の危機に直面している人々の助けになるんです。当クラブが国際協会の一員としてこの街にあることの意義、すばらしさを改めて実感しました」と、毛利昭夫会長はその喜びを熱く語った。

タイの視力ファースト基幹病院を支援

334-B地区（岐阜県、三重県）

LCIF一般援助交付金：17,500ドル／事業完了日：2007年5月13日

5月13日、岐阜県揖斐川町で334-B地区年次大会が開催され、式典の中で6件の記念事業が発表された。特に注目を集めたのが、タイへのLCIF事業だった。というのも、同地区年次大会における海外向け記念事業というのは、前例がなかったからだ。

きっかけはスタディ・ツアー

事業のきっかけは、2006年2月のLCIFスタディ・ツアーだった。日本のクラブによる海外支援事業を視察するもので、毎年、LCIFが主催している。

334-B地区では例年、副地区ガバナーがツアーに参加。申し送り事項のようになっている。2006-07年度の小林ガバナーも、副地区ガバナーとしてこれに参加した。

この年の目的地はタイ。最初の視察先は首都バンコクの東北約260キロにあるコラートの病院だった。この病院には公衆衛生眼科研究所が設置され、1980年以来、失明予防を中心に事業を展開してきた。更に90年代からは視力ファースト交付金を得て、13カ国の医療従事者を招き、眼科サービスのマネージメント教育を実施している。

研究所では、視力ファースト技術顧問を務める紺山和一博士を始め、現地の医師から、これまでの活動と今後の展望について話を聞いた。その中で、コラートはタイの貧しい地方の代名詞「イサーン」の玄関口であることが紹介された。

そして現在、イサーンなどで地域に根ざした住民参加型の医療サービスを構築する計画があること。これがうまくいけば、先進国でも途上国でも使える予防重視のモデルになり得るという説明が、紺山博士からあった。が、実際には資金難のため移動手段がなく、これら貧しい地域を回ることが出来ずにいることも語られた。

医師である小林ガバナーは、この計画にかなり興味をひかれたようで、博士の説明が終わった後も、いくつかの点で質問をし、納得のいくまで話を聞いていた。

視力ファースト事業への関与

「紺山先生の話を伺い、視力ファーストⅡキャンペーンに献金するだけでなく、事業そのものにかかわることも我々の義務だと考え、自分の地区ガバナーの年度に何とか実現させたいと心に決めました」

そう語る小林ガバナーは、年次大会記念事業を策定する中で、キャビネットに自分の考えを披露した。が、最初は前例がないと、反対する会員もいた。それでも最終的には小林ガバナーの思いを理解してくれ、キャビネットが一つになって実現に向けて動き出した。

地区では、タイのソムサクディ・ロヴィス国際理事（当時）とも相談しながら車種の選定を行い、LCIF交付金を申請。3月の国際理事会で承認を受け、4月には208万円の交付金が振り込まれた。そして年次大会には、ロヴィス元国際理事に出席して頂き、式典の中で目録を贈呈した。

「今後、キャビネットの幹事団と共に、再びタイを訪問し、今回寄贈した車が有効に活用されていることを確認していきたい」と、小林ガバナーは話している。

CLUB REPORT
クラブ・リポート

●この欄ではライオンズクラブ、レオクラブ、ライオネスクラブの活動報告を扱います。詳しい投稿要領は62ページ、または『ライオン』誌ウェブ・マガジンをご覧ください。

336-D地区第5リジョン第1ゾーン
もったいないキャンペーン

336-D地区では昨年度に続き今年度（2006-07）も、環境プログラムで「もったいない」キャンペーンが取り上げられた。そこで第5リジョン第1ゾーン（下松、徳山、光、徳山中央、下松中央、熊毛の6クラブ）はゾーン内でいろいろと検討し、家庭や職場で使われずに眠っている文房具を中国・黒竜江省の小学校に送り、もう1度有効に活用しようということになった。

各クラブで地域の小学校や職場、市の広報等でPRを行い、新品も使いかけの物も併せて募集。一般の方の協力もあり、大量の文房具や学用品が集まった。その仕分け作業は大変だったが、無事に総重量430キロとなる15個の荷物を発送した。

送った文房具や学用品は日中友好小学校で3月26日の新学期始業式に児童に手渡された。その時の写真と、お礼の手紙が4月9日に各クラブ会長あてに届き、キャンペーンは成功裏に終了した。

（熊毛ライオンズクラブ／寺岡泰成）

連絡先→0833-45-2555

（編）寄贈先の日中友好小学校は、同地区第3リジョン第3ゾーンが校舎を寄贈した学校。学用品が不足しているとの情報を得て、送付を決めたそうです。

北海道・上磯ライオンズクラブ
チャリティー歌謡ショー

上磯ライオンズクラブ（渡辺晃男会長／33人）は3月23日、市総合文化センターかなでーるで、チャリティー歌謡ショーを開催した。北斗市誕生一周年を記念して主催し、当日は市民ら800人が会場に詰め掛け、津軽三味線や江差追分などの音色を楽しんだ。

ショーはにぎやかな津軽三味線でスタートし、ぴったりと呼吸の合った津軽じょんがら節に会場からは大きな拍手が送られた。

渡辺会長は「明るく住みよい北斗市のため、今後もいろいろなチャリティーを企画するのでご協力をお願いします」と市民にあいさつした。また、北斗市の福祉事業に役立てて頂くよう、益金の一部を寄贈した。

イラスト／篠田和夫

（PR委員長／宮崎高志）

連絡先→0138-73-3994

（編）大成功のうちに幕を閉じ、次回はどのようなチャリティー企画が行われるのか、市民の皆さんは今から楽しみにしていることでしょう。

宮崎県・延岡五ケ瀬ライオンズクラブ

介護施設にて慰問演奏会

3月23日、延岡五ケ瀬ライオンズクラブ（岩切武則会長／53人）は、延岡市内の介護老人福祉施設、特別養護老人ホーム「敬寿園」でマンドリン演奏会を開催した。

「延岡の春は、マンドリンの調べとともにやって来る」とまで言われるようになった毎年恒例の「明治大学マンドリン倶楽部演奏会」。今年で25回目となる、資金獲得のための継続事業である。敬寿園での慰問演奏会は演奏会前の午前中に、部員12人が参加して行われた。会場のホールは毎年楽しみにしている入所者やその家族、施設職員の方々ら200人以上が集まった。演奏が始まると皆生き生きとした笑顔があふれ、テンポの良い古賀メロディが演奏されると、手拍子を打ったり、身体を左右に動かしたりと軽快なマンドリン演奏を心ゆくまで楽しんでいた。楽しい時間はあっという間に過ぎ、終了時には惜しみない拍手が起こり、「また来てね」と、次回を楽しみにする言葉も聞かれた。

夜の演奏会は延岡総合文化センターに市民約1400人が来場。ゲストに新沼謙治さんを迎えて、大いに盛り上がり、2時間余りの演奏会は大盛況のうちに閉演することが出来た。

（PR・会報・IT委員長／宮脇義光）

連絡先→0982・34・0001

（編）この収益金は、少年少女ソフトボール大会の開催や聴覚障害者・視覚障害者への助成、福祉施設への支援、献血・献眼登録活動などの各種アクテビティで有効に活用されているそうです。

香川県・多度津ライオンズクラブ

小学校へ流氷をプレゼント

多度津ライオンズクラブ（吉田清志会長／40人）は3月14日、多度津町内の4小学校に北海道の流氷をプレゼントした。

子どもたちに地球温暖化などの環境問題について学ぶ教材にしてもらうのが目的で、昨年に続いて二回目だ。今回は当クラブと親交のある、北海道建築士会宗谷支部青年部のメンバーがオホーツク海の沿岸にある雄武町の海岸で採取した約二十キロの流氷を多度津、豊原、四箇、白方の四校に分けた。

同建築士会によると、今年は暖冬の影響で流氷の接岸時期が大幅に遅れ、採れないまま沖に離れてしまう可能性もあったが、3月7日にようやく漂着した流氷を青年部のメンバーが集め、当クラブへ宅配便で配送。即日、採取した際の写真や、流氷に関する書籍と共に小学校へ贈った。

豊原小で行われた寄贈式には会員5人が出席し、吉田会長から流氷を受け取った児童が「パソコンや写真でしか見られない流氷を楽しみにしていました。ありがとうございました」とお礼を述べた。

北海道の冬景色を思い浮かべながら、普段なかなかお目に掛かることの出来ない極寒の自然の神秘を実感したことであろう。

（情報PR委員長／吉富昭）

連絡先→0877・33・2882

（編）流氷を受け取った子どもたちは自分の手に取って「冷たーい」「重い」と大はしゃぎだったそうです。

愛媛県・今治くるしまライオンズクラブ

木下航志チャリティー・コンサート

4月29日、今治くるしまライオンズクラブ（60人）は4回目となるチャリティー・コンサートを開催した。今回はCSFⅡの資金集めと共に、クラブの活動を広く一般の方々に知って頂くために企画した。盲目のシンガー・ソングライター木下航志さんに出演して頂き、また、地元・愛媛県を中心に活躍しているミュージシャンにも共演して頂いた。

当日は1136人が来場して立ち見が出る程で、ステージでも演奏に力が入り、アンコールも含めて3時間近くの長いコンサートとなった。多くの方から「とても良かった」との声があり、昨年から準備を進めてきたメンバーには、とてもうれしい反応だった。

入場料、募金、パンフレットへの広告出稿料などを含めた収入は予想をはるかに上回り、収益事業としても大成功。また演奏の間にはCSFⅡの活動を紹介するVTRを上映して、PR活動としても満足いく事業となった。観客の皆さんからの募金は15万円を超え、CSFⅡの趣旨が確かに伝わったことを実感した。たくさんのチャリティーの心が通い合った1日だった。（会長／越智弘和）

連絡先→0898・25・2930

（編）木下さんは鹿児島盲学校に通う18歳。アテネ・パラリンピックのNHKイメージソングなどを手掛けた注目のミュージシャンで、独特のソウルフルな歌声が多くの人を魅了しています。

大阪難波ライオンズクラブ

残念石の修羅引きパレード

大阪城を築城する際、小豆島から切り出されながら利用されずに残された「残念石」にちなんだイベント、「大阪城残（のこり）石の修羅引きパレード」が4月29日、パークス・カーニバルモールで行われた。「浪速区未来わがまちビジョン」事業の一環で、新世界など浪速区内3所に坪庭を作り、実際の残念石をモニュメントとして設置。パレードでは修羅（丸太を並べて大石を運ぶ道具）による当時の搬送を再現した。

大阪難波ライオンズクラブ（34人）はこの事業に協賛し、当日はクラブを代表してテープカットに参加した。修羅引きパレードは区内の専門学校の留学生らが参加して国際色豊かに行われ、見物の皆さんも楽しんでおられた。連休の賑わいの中、クラブ名入りののぼりが掲げられ、ライオンズを大いにPRすることが出来た。（会長／近藤維良）

連絡先→06・6631・3326

（編）小豆島は良質の花崗岩の産地。切り出した岩は崖を転げ落とし、修羅で海岸へ運んで船に積まれました。かつての石切場周辺には今もたくさんの巨石が転がっているのだそうです。

東京都・町田クレイン・ライオンズクラブ

YE生マラソン大会へ参加

町田クレイン・ライオンズクラブ（志村容一会長／32人）は4月21日から5月5日の15日間、パプア・ニューギニアからのYE生、アカ君とスケネ君を受け入れた。2人は日本で開催されるマラソン大会への参加の他、観光や施設見学、体験学習などを通して日本の伝統やすばらしさを知ってもらえるよう、メンバーやホスト・ファミリーと滞在期間を有意義に過ごした。

4月29日、来日の最大の目的でもあるマラソン大会当日。前日まで国士舘大学陸上競技部のメンバー約20人とランニングなどで調整し、大会へ臨んだ。が、1700人を超えるランナーが走るコースで転倒したランナーを助けようとしたため、結果は50位過ぎてからのゴール。ともあれ無事に完走し、良い思い出となったようだ。

また滞在期間中には動物園や東京見物の他、各メンバーの仕事現場を見てもらった。農家の畑からフード産業、建築現場、精密機械工場など12種類のビジネス現場を興味津々な様子で見学していた。更にクラブのアクティビティに参加し、鶴見川の清掃事業を一緒に行い、皆で気持ちよい汗を流した。

あっという間の15日間ではあったが、2人には一生忘れられない思い出と、将来に役立つ体験が出来たのではないだろうか。

（YE・LCIF委員長／金子安男）

連絡先☎042・736・2666

（編）2人が日本に来てまずびっくりしたことは、パトカーのサイレンだったそうです。

茨城県・取手大利根ライオンズクラブ

サケの稚魚の飼育と放流体験

取手大利根ライオンズクラブ（川又貞男会長／42人）は毎年12月初旬、サケの発眼卵を取手市内の9小学校に配布し、2〜3カ月飼育してもらい、2月中旬〜3月上旬にかけて、市内を流れる利根川や小貝川に放流するという事業を行っている。

サケの生態については、太平洋側は千葉県以北の河川の上流（清流）で産卵・ふ化し、稚魚となって海に下り、北洋を回遊しながら成長し、2〜4年後再び産まれた川に戻り産卵して、その一生を終えることが解かっている。

児童たちはサケの飼育と放流を通じて、生き物に接する楽しさや失ったときの悲しさ、命の大切さや環境を守ることの重要性、自然の不思議や生命の神秘など、実に多くのことを学んでいる。メンバーも放流に立ち会い、児童の書いた感想文を読むと、子どもたちの感受性の豊かさや、旺盛な探究心に感心させられ、大いに励みになると共に、その純粋さに心を打たれる。

この事業は久慈川漁協に発眼卵の提供を受け、各小学校の先生方の全面的な協力の下、長年にわたり継続されており、これからも続けていきたい事業の一つとなっている。

（幹事／佐藤敬治）

連絡先☎0297・74・1226

（編）サケはなぜ産まれた川へ正確に戻ることが出来るかなどまだ解明されていない部分も多く、大変神秘的な魚だそうです。

千葉県・浦安シーサイド・ライオンズクラブ

合同お花見大会

浦安シーサイド・ライオンズクラブ（平野民夫会長／28人）は4月1日、浦安市中央公園にて浦安在住外国人会の皆さんと合同お花見大会を開催した。

桜の下で催す宴は、これぞ「日本の文化」と言えるものの一つであり、在住の外国人の方々にも楽しんでもらえたらと毎年企画している。14回を迎えた今回は、好天に恵まれ、桜も満開、公園は人と花でいっぱいとなった。

当日は参加者が腕によりをかけた一品を持ち寄り、宴の幕開けとなった。集まった料理は、おにぎり、お寿司、酢の物、煮しめ、ソーセージ、スペアリブ、チリビーンズ、カレー、キムチ、春巻き、そしておつまみ、ケーキ……。参加者の国籍も、インド、韓国、台湾、アメリカ、中国、パキスタンなどと多彩である。久しぶりに顔を合わせる人もいてお酒も進み、浦安での暮らし、本国の話など語らいはつきない。

現在浦安在住の外国人の方々は3千人を優に超え、市内の大学で学ぶ留学生も数百人に及ぶ。交流活動も日常化しており、在住外国人会の文化交流の催しも活発である。「あおべかと人情のまち浦安」はディズニーリゾートが出来て、更に多くの外国人が集う町となった。心の交流が深まることを願っている。

（PR委員長／宮下正紘）

連絡先↓047-351-4588

（編）年末も在住外国人の皆さんと共同クリスマスパーティーを開催し、1年の締めくくりとなっているそうです。

岐阜県・高山ライオンズクラブ

骨髄バンク講演会

高山ライオンズクラブ（80人）は3月10日、「骨髄バンク講演会」を岐阜骨髄献血希望者を募る会高山支部と共に開催した。骨髄バンクに関しては、地域になかなか受け入れてもらえない面があるが、ぜひ市民の皆さんと共に考えたいという願いから実施した。

当日、メンバーは会場となった高山市民文化会館に午前9時に集合し、会場設営に追われた。また、同時に開催した白血病の患者さんたちの絵画や手紙などの展示の準備も行い、子どもから大人まで多くの人々の目に止まるように工夫した。

講演会では、まずクラブからの協賛金を贈呈した。その後体験報告として、実際に御子息が骨髄移植ヶによって健康になられた方の体験談を聞いて終了となった。

一般市民の参加者は70人程度ではあったが、骨髄バンクのメッリトやデメリットを知る貴重な機会を作ることが出来た。（会長／田近重信）

連絡先↓0577-32-5269

（編）このような機会を利用し骨髄バンクの登録者が増え、多くの白血病患者の助けになればいいですね。

試写会リポート

映画「ブラインドサイト～小さな登山者たち～」

目の見えない子どもたちのエベレスト挑戦の物語

目の見えない子どもたちが、エベレストに挑む――。この夏公開される映画「ブラインドサイト～小さな登山者たち～」は、チベットにある盲学校の子どもたちの挑戦を追ったドキュメンタリー。世界の失明撲滅を目指して視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）が進行する中、ライオン諸氏も興味を引かれるに違いない。そう思って、試写会場に向かった。

チベットには、盲目の人は前世の悪行が原因で悪魔に取り憑かれているという言い伝えがあり、視覚障害者はいわれのない差別を受けてきたという。映画の中に、白杖をついて町を歩く子どもたちに容赦ない罵声が浴びせられる場面がある。子どもたちがひどい仕打ちを受けている現実にまず驚いた。

映画に登場するのは、チベット初の盲学校を設立した盲目のドイツ人女性サブリエ・テンバーケンと、彼女の元で学ぶ子どもたち、そして盲人として史上初めてエベレスト登頂に成功したアメリカ人登山家エリック・ヴァイエンマイヤー。彼らは共にエベレストの北、標高7千㍍のラクパリの頂上を目指す。

カメラは過酷な挑戦を追う一方で、暗闇に生きる子どもたちの日常にも向けられ、社会や家族から拒絶された苦難の日々をも垣間見せる。彼らは盲学校で、誇りと自信、生きる希望を見いだし、エベレストへの挑戦で力強く人生に踏み出す勇気を手に入れる。

障害の有無にかかわらず、無限の可能性に向かってひたむきに歩む姿に、胸を打たれた。（河）

「ブラインドサイト」

監督：ルーシー・ウォーカー
青少年映画審議会推選
東京ヘレン・ケラー協会推薦

●7月21日（土）から東京・渋谷のシネマライズと品川の品川プリンスシネマ、千葉の京成ローザで公開。8月中旬以降、札幌、仙台、名古屋、大阪、福岡など全国19カ所で上映される。品川プリンスシネマでは音声ガイダンス付きの上映も予定されている。公開情報はホームページで随時更新。

blindsight-movie.com

奔流50年　回想の日本ライオンズ

●第8回

アイバンク運動と献血奉仕

ライオンズが先駆けとなった二つのアクティビティ

全国のライオンズの今につながる息の長いアクティビティも、日本ライオンズの初期に生まれた。

全国のクラブの合同事業第1号は、1959年4月に行われたミンダナオ島地震の見舞いで、当時の全クラブ（10クラブ）から30万円を集め、衣料品を送った。都市銀行の大卒初任給が1万5千円の時代だった。同じ年、全クラブから30万円が集められ、新潟大火救援見舞金が贈られた。

今につながるアイバンク運動も初期のライオンズの活動から始まった。64年、東京の六つのクラブが協力してライオンズ・アイバンク協会を発足させ、「トラは死して皮残し、ライオン死して目を残す」のスローガンで活動を開始した。同じ年、静岡県・沼津ライオンズクラブの勧山弘が檀家の通夜の際、崇高な献眼の現場に立ち会うこととなり、それが大きな運動のきっかけとなった。

翌年秋、勧山の提言で沼津ライオンズクラブと沼津千本ライオンズクラブの全員がアイバンクへの登録を済ませる。更に翌66年、沼津ライオンズクラブは活動を市内全域に広げ、島津久永・貴子ご夫妻を迎えて、献眼登録者大会を開いた。

運動の輪は更に大きくなり、68年12月、静岡県内の全クラブが結集して第1回アイバンク運動推進協議会が開かれた。アイバンク運動を進めていたのは、静岡県だけではなかった。同じ時期、京都ではアイバンク促進を目指してPR映画が制作され、映画は、302－W5地区の年次大会でも上映されて、運動に弾みをつけた。横浜中央ライオンズクラブが100人に迫る集団登録を実現させた。同市赤十字病院開設以来という数字であった。71年3月、沼津市で第1回アイバンク運動全国大会が開催され、74年には静岡県小山町の小山ライオンズクラブが、町民の20人に1人という全国一の高率の献眼登録を実現させる。まさに怒涛の勢いであった。

1965年、岩国ライオンズクラブでの献血の様子

アイバンク運動と共に、息の長い運動となったのが献血運動だった。64年、東京の全クラブが移動採血車の購入資金の半額を負担、65年の302－W4地区年次大会でも献血運動が取り上げられた。翌年誕生した東京秋葉原ライオンズクラブでは、献血を最初のアクティビティに取り上げ、まず、家族全員、事業所従業員全員がこぞって献血した。あるライオンは社員に献血を頼んだ後、「どうだった、ご苦労だったな、ウナギでも食うかい」と、うな丼を振舞う気遣いを見せたという。

秋葉原ライオンズクラブの活動は地域にとどまらなかった。65年には、東京理容環境衛生同業組合に献血を呼び掛け、都内23区はもとより、旧三多摩全域の理容師、理容学校に訴えて、3年半で1万2千人の献血を実現させた。75年には、日赤創立以来の採血量新記録となる受付数4万4900本を達成する。同じような熱意は各地で示され、これも息の長い運動となっていった。

（原武夫）

大成功だった横浜シニア・フォーラム

森　一男（北海道・サッポロシニア）

「車いすの生活になっても、ライオンズクラブを辞めないでください。生きてさえいれば、例会で仲間に会え、声が聞けるじゃありませんか」

伏見龍国際理事の言葉が重く、胸にズシリと響いている。

第3回全国シニア・フォーラムが、5月22日、横浜で開催された。今回は初物づくし。国際理事が基調講演し、分科会方式を採用した。活発な討議が行われ、中身が濃く、考えさせられるフォーラムとなった。

第1回のフォーラムは、2003年に我がクラブの結成5周年を記念して札幌で開催。20クラブから200人が参加した。

第2回は、05年に大変長いクラブ名を持つ、国分隼人天降川縄文（こくぶはやとあもりがわじょうもん）ライオンズクラブが、町おこしの一環として鹿児島県で開き、25クラブから240人が参加した。

今回は、21クラブから210人と、参加者数は200人台で安定しており、全国のシニア会員の関心の高さがうかがわれる。

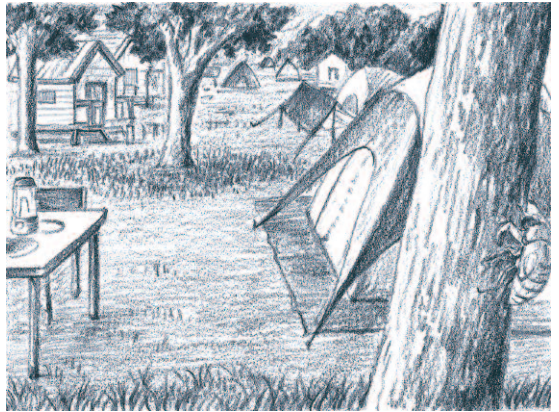
これまでは、単独クラブの主催だったが、今回は330複合地区の横浜、大宮、熊谷、東京多摩グラッドの4シニアクラブの共催となり、見事に成功させた。

フォーラムではセレモニーの後、地元・横浜出身の伏見国際理事が、基調講演した。

「国際協会としては、シニアライオンズクラブを会費の面などで特別扱いはしていませんよ。皆さんも人生の折り返し地点を過ぎています。帰りの道程を少し考え、健康で仲間を増やし、仲良く過ごして欲しい」と熱弁を振われ、冒頭の話で結んだ。

分科会は、A「シニアライオンズクラブとは」、B「会員増強とエクステンション」、C「充実したシニアライフ　奉仕活動の原動力」の3テーマで、司会者、パネリスト2、3人と会場との質疑応答スタイルで行われた。

Aでは、「シニアと言えば、年寄りくさく聞こえますが、シニアには先輩、経験者、上

イラスト／小川和政

席の意味があります。現に我がクラブには、44歳から82歳までおります。年齢は関係ありません。会費を安く、経験と知識を生かし、金銭でなく労力奉仕を中心に活動しています」。

Bでは、「入会させる時は、根気強く説得するしかありません」、「会員の名簿にスポンサー名を入れ、退会防止の一助にしています」など、関心の高いテーマだけに熱っぽく議論が交わされた。

Cでは、「奉仕活動するためには、健康でなければダメです。健康を維持するには、食い気、色気、しゃれっ気、やる気の4Kが必要です」との意見発表があった。

私がパネリストを務めたAでは、「全国のシニアライオンズクラブからキャビネットの役員が、相次いで誕生している。既存のクラブに同化され、シニアはシニアらしくという結成の精神が失われるのではないか」との指摘があった。

シニア・ライオンズクラブの第1号は、下館シニア（茨城県）で13年前に結成された。現在、シニアクラブは40クラブ程ある。実績が認められ、ゾーン・チェアパーソン、リジョン・チェアパーソンを各地区で輩出し、この7月には330-C地区（埼玉県）で、ライオン星山春雄（熊谷シニア・ライオンズクラブ）が副地区ガバナーになり、来年はついに初の地区ガバナー誕生となる。私も7月からゾーン・チェアパーソンになるが、シニアらしさを大切に、身の丈に合ったウィ・サーブをしたいと思う。

分科会の後、「シニア・ライオンズクラブは、団塊の世代のセカンドライフの受け皿的な存在になり、経験を踏まえて、新しい形のアクティビティを創造しよう」との横浜宣言を採択した。横のネットワークである「日本シニア・ライオンズクラブ連絡協議会」の役員も一部入れ替わった。

シニア・フォーラムは、番外編の05年に仙台で開かれた東洋・東南アジア（OSEAL）フォーラムのミニ・シニア・フォーラムを含めると4回目。懇親会では、顔なじみのメンバーが多く、あちこちで談笑の輪が出来、絆は更に強まった。参加者は「第2の青春は社会貢献」とばかりに燃えている。

（元新聞記者・69歳）

ヘレン・ケラー女史の講演会

佐野 滋治（京都室町）

昭和23年10月初め、当時、同志社大学の学生だった私は、大学正門前に「ヘレン・ケラー女史の講演会」の立て看板を見た時、一瞬、三重苦の方がどうして講演を？ と、驚きの念が沸くのを禁じえませんでした。

ヘレン・ケラー女史は、大阪の「ライトハウス」の創立者であった岩橋武夫氏との長年の交流を通し、大変な親日家で、生前3回訪日されました。1回目は、昭和11年。2回目は、昭和23年。3回目は昭和30年でした。しかし、2回目の訪問は、困難を極めた時期でした。昭和23年の時代背景を見ますと、終戦から3年しか経過しておらず、まだ日本はア

メリカの占領下でした。京都は幸い戦災を免れましたが、東京を始め日本の都市のほとんどは廃墟と化し、復興は緒に就いたばかりでした。アメリカ人でも軍人、軍属とその家族以外は、日本入国は禁止されておりました。ケラー女史は、戦前から深い信頼で結ばれていた岩橋氏との再会を果たすため、更には、日本の障害のある人を激励したいという強い意志を持っておられました。

幸い、ケラー女史のご親戚とマッカーサー元帥が知己であったよしみから、女史はマッカーサー元帥に訪日を強く懇請され、元帥も平和の使者としての女史の立場を考慮の上、訪日が実現されたと聞いております。

昭和23年10月11日は晴天に恵まれ、同志社大学・栄光館の1階は、身体に障害のある子どもたちと同志社女専の生徒が着席し、学部の学生（私は経済学部の2回生）は2階に着席して開会を待っていました。定刻になると、紫色の鮮やかなワンピースを着たケラー女史が、ステージの右側から左手をトムソン秘書にエスコートされ、右手を高く振りかざしてほほ笑みを私たちの方に向けて入場されました。

その時、天使が舞い降りたという感がありました。20世紀の聖女と言われるお姿を目の当たりに拝見致し、生涯忘れられない感激をしたことを今に至るまで覚えております。

講演に先立ち、会場の雰囲気を和らげるために岩橋氏とトムソン秘書からケラー女史に一問一答が試みられました。次いでケラー女史の講演では、三重苦とは思えない明るく若々しい表情で、語るというより女史独特の声音で訴える形で聴衆の心を捕らえました。特に世界の平和を強く訴えられたことが印象的でした。

ライオンズクラブと女史との関係は、1925年の国際大会で女史が視覚障害者のための援助を訴えて以来のものです。以後、視力保護はライオンズクラブの代表的な奉仕となり、現在の視力ファーストまで続いています。今思いますと、大変貴重な講演だったと、感慨い深い思いです。

（呉服卸業・81歳）

漢字から学ぶ

出口　光晴（広島県・瀬戸田）

最近、漢字が静かなブームになっています。私は、日頃何気なく使っている漢字にふとしたことから興味を持ち、漢字の由来や語源には何が隠されているのだろうかと文化につい

て調べてみました。

漢字の由来は古代中国の神話から始まり、人が生活の中で見たものをそのまま記録し、後世に伝えようと、長い年月を掛けて作られています。そして文字の持っている元々の意味や秘められた謎も少し分かってきました。いくつかご紹介しましょう。

例えば正の文字は、「一」と「止」から出来ており、一は土地（周りを城郭で囲まれている邑）を表し、止は歩を略したもので足跡の形を示し、「前進」を意味します。つまり、足が目標の場所を目掛けて進んだ様子を示した文字です。戦国時代には、いろいろな意見を一つにまとめて土地を征服することを意味しました。

人という文字は、人の体を横から見た形から出来ており、2人でこの世の中を支えあって生きて行くという説もありますが、本来は人の世とか世間という意味になっています。

また、大とよく似ている犬という文字は、点が犬の耳を表し、人の正面形である大と区別していると言われています。

続いて、ライオンズで行われている例会の例の文字は「イ」と「列」から出来ており、人が順序よく並ぶ状態を表しています。そこから「類（たぐい）」の意味に使われています。

また、日本人の好きな言葉「愛」については、もともとは物をむさぼり、それに執着するという意味でした。しかしその後、親子兄弟等の家族愛、祖国愛そして男女の恋愛、更に無限の慈悲というように広い意味になってきました。

最後にもう一つ。漢字が日本に伝えられてから日本で作られた言葉で「一生懸命」という熟語がありますが、正しくは「一所懸命」であり、これは武士が与えられた領地を命懸けで守ったということになっています。

他にもたくさんありますが、漢字が生まれた時の人々の生き方や考え方から本来の意味を知って、造詣を深めることにより、日常生活の中に潤いが生まれれば良いと思っています。

（造船鉄工業・65歳）

世界へ誇る「日本国際賞」

金子 保久（千葉県・浦安シーサイド）

皆さんは、「日本国際賞」というのをご存知ですか？

「日本国際賞」とは、国際科学技術財団が、科学技術において独創的・飛躍的な成果を挙げ、その進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献したと認めた人に与える国際的な賞です。

授賞対象分野は、領域Ⅰ（数学、物理学、化学、工学系）と、領域Ⅱ（生物学、農学、医学系）の2分野で、原則として各分野1件に対して授与されます。国籍・職業・人種・性別等は問いません。受賞者には、賞状、賞牌及び1分野につき賞金5千万円が贈られます。

天然資源に乏しい日本は、科学技術を取り入れ高度経済成長を成し遂げましたが、同時に科学技術が成し得る破壊的影響をも身をもって体験しています。この賞の設立の背景には、日本が科学技術の振興を強力に推進し、その決意を国際社会に明確にするために、研究を通じて人類の平和と繁栄に貢献した人々を顕彰したいとの考えがありました。

昭和56年、当時の鈴木内閣の中山太郎総理府総務長官が「国際社会への恩返しの意味で、日本にノーベル賞並みの世界的な賞を作ろうではないか」と構想を立て、それに松下電器産業株式会社の創業者・松下幸之助氏の「畢生（ひっせい）の志」としての寄付が肝入りとなって実現に向かいました。

昭和58年10月28日、政府は「日本国際賞」

が果たす役割は大であると認識し、「実施に関して、関係行政機関は必要な協力を行うものとする」と、閣議で了解され現在に至っています。

選考対象は、財団内に設置された分野検討委員会が、科学技術の動向等を勘案しながら、前文で述べた2つを授賞対象分野として指定し、広く世界各国の多数の学者・研究者に推薦依頼状を送って、受賞候補者の推薦を求めます。そして、全世界から推薦された候補者の中から、日本国内の学識経験者からなる審査委員会が審査選定します。更に審査過程において、国内外の有識者から評価と所見を聴取することもあります。これらを参考にして、審査委員会は、最終的に受賞候補者を財団の役員会に推挙し、その役員会が受賞者を決定します。

受賞者は例年1月に発表され、授賞式典は、同年の4月に天皇皇后両陛下御臨席の下、内閣総理大臣、衆議院・参議院議長、最高裁判所長官を始め、関係閣僚、駐日外国大使、学者・研究者、政官界、財界並びにジャーナリストなど、約千人が出席して盛大に開催されます。

本年は4月18日に、東京の国立劇場にて両陛下御臨席の下、挙行されました。受賞者は、「巨大磁気抵抗効果（GMR）の発見と革新的スピンエレクトロニクス・デバイスの創生」の業績により、アルベール・フェール博士（仏）とペーター・グリュンベルク博士（独）。「人と共生する熱帯林保全への貢献」の業績により、ピーター・ショウ・アシュトン博士（英）の3名です。

昭和60年の第1回から今回で23回目を数えたこの賞は、これまでに13カ国、63人の科学者が受賞しました。フロンガスによる成層圏オゾン層破壊のメカニズムを指摘したF・シャーウッド・ローランド博士（米）、不妊虫放飼等による害虫総合防除技術を開発し沖縄の農業にも多大な影響を与えたエドワード・F・ニプリング博士（米）、インターネットの最も重要な利用技術であるワールドワイドウェブ（WWW）を発明したティモシイ・J・バーナーズリー博士（英）、血中コレステロール値を下げる画期的な物質「コンパクチン」を発見した遠藤章博士（日）も日本国際賞の受賞者です。

私は先頃まで、国際科学技術財団の事務局長を務め、この日本国際賞に携ってきました。日本にも世界へ誇るすばらしい賞があることをお伝えしたく、ご紹介させて頂きました。

（電器メーカー客員・70歳）

私たちのクラブは今年5月に結成から丸10年を迎えました。結成以来、クラブが取り組んできた事業に献血があります。今年2月に実施した20回目の献血受付で、初回から毎回協力してくださった方がお一人おられ、感謝状並びに記念品を贈呈致しました。

我がクラブの献血事業の内容を、少しばかり紹介します。会場には私立高校のグラウンドを駐車場も含めて提供して頂いています。毎年2月と9月の年2回実施し、ここ数年の動員数は1回当たり800～1,000人です。2月には「卒業記念献血」と銘打って、70人前後の生徒さんにも協力を頂いています。協力してくださるのは会員の事業所の従業員や学校関係者、地域住民の皆さんで、献血前日に立て看板を立て、チラシを配布し、以前ご協力頂いた方にはダイレクト・メールを送付して広報に努めており、ご理解頂けるようになってきました。

我がクラブはこのような活動をしていますが、ライオンズ全体ではどうでしょうか。私はこれまでにクラブの三献委員長、準地区の三献委員長を務め、2006年度は複合地区の三献委員を拝命しました。それぞれの担当の中で研究会や会議などに出席して参りましたが、各クラブ、地区において活動、考えの違いがあるように思われます。中には、「赤十字血液センターは我々に献血を手伝わせ、その血液を売って事業をしている」と批判的な会員もおられます。しかしこの事業は法律に定められ、普通の営利事業ではないのです。献血は地域社会に奉仕する我々の重要なアクティビティの一つだと、純粋に考えるべきではないでしょうか。

石油、食料などあらゆる資源を輸入に頼る我が国ですが、少子高齢化が進む昨今、近い将来、血液までも輸入しなければいけない日がくるのではないでしょうか。

337-A地区のライオンズクラブは、県全体の献血の13.5%前後を供給しております。我々ライオンズの占める役割は大変重要だと考え、責任さえ感じずにはいられません。

将来を見据えながら、国、県、赤十字、ライオンズクラブが一体となり、立場の違いを乗り越えて、この事業の在り方を今一度考えなければならない時期だと思います。

イラスト／藤英毅

原稿募集

＊今回取り上げたテーマ、提言に関する読者の皆さんのご意見をお寄せください。
＊本欄では右記テーマで問題提起、提言を募集しています。1,000～1,200字の原稿にまとめてお送りください。→送付先は62ページ掲載。

募集テーマ

- 周年式典
- 年次大会
- 単年度制
- 清掃奉仕
- 青少年交換（YE）
- 姉妹提携
- 資金獲得事業
- その他ライオンズ関連なら何でも

俳壇

■選者　森　澄雄

【入選】▼

万緑や法燈揺るる瑞巌寺
（千葉県・船橋シニア）紺谷　宗男

雪渓を眺め足温泉を浸す里
（愛知県・南知多）内田二三子

吊橋のゆれて木曾谷若葉風
（愛知県・名古屋樟）高橋　忠男

風変はりまた聞こえ来る祭笛
（岐阜県・大垣東）大橋庄一郎

峠越すここは三河路柿若葉
（静岡県・三ケ日）足立　貞男

円空の墓前に竹の落葉かな
（福井県・敦賀）山本　麓潮

信玄の隠し湯ひそと桐の花
（兵庫県・神戸シニア）中村麦芽子

去来芭蕉愛でし落柿舎緑立つ
（大阪夕陽丘）中村　豊彦

初孫を廻し抱きして子供の日
（大阪府・池田）池内　彰

七曲るトロッコ列車いま青嶺
（大阪府・堺浜寺）宮部志都代

つばくらめ自由に行き来新居関
（大阪府・堺浜寺）宮部　嘉博

風光る坊に葵の紋瓦
（大阪府・堺浜寺）仲西　健豊

青葉濃し日向日影の伽藍道
（和歌山県・伊都高野山）慈幸　洋藏

五月晴れ波止場しぶきにかもめ舞ふ
（大分県・四日市大分）酒井猪一郎

縺れ合ふ雀に青葉若葉かな
（佐賀県・唐津レインボー）古川　工

【特選】

万緑を塔の相輪ぬきん出て
（三重県・松阪はなしょうぶ）大西　さよ

（評）どこの寺の塔か。薬師寺の東塔、西塔だろうか。相輪は仏塔の最上部にある装飾部分。下から露盤・伏鉢（ふくばち）・請花（うけばな）・九輪・水煙・竜舎・宝珠の七つから成る。見渡す限りの青葉若葉の生命力に満ちみちた樹木の緑をぬいてひときは高く相輪が出ている。

白南風（しろはえ）や裾野を海に薩摩富士
（三重県・四日市中央）若山　一清

（評）薩摩富士は薩摩半島南東端にある円錐状の二重式火山の開聞岳。標高は九二二メートル。秀麗なその姿から薩摩富士とも呼ばれる。海側の裾野は太平洋に削られて断崖絶壁になっている。いま梅雨が明け、空は明るく晴れ渡り、白南風に海も山も明るくかがやいている。

（投稿要領→62ジペー）

歌壇

■選者　春日真木子

【特選】

こよりといふ言葉やさしき細きひも縒りゆく指先ほのかに温し
（千葉県・館山中央）荻野　貴子

（評）「こより」、紙縒と書くこの言葉は、現在はまるで死語のようだ。こよりを知らぬ人も多い。上質の薄手の和紙を細く切り、拇指と人差指、中指も添えて指先で縒ってゆく。出来上がった紙縒の先は、錐のように鋭く、つんと立ち上がる。かつては和紙に墨書の手紙も多く、それらを紙縒にしていた。心のこもる言葉が一本の細い紙縒のなかに秘められてゆくのである。縒ってゆく指先の「ほのかに温し」には、そんな思いをも籠めているのではなかろうか。やさしい日本の言葉を懐かしく甦らせている。

（投稿要領→62ページ）

【入選】▼

菜の花の咲く休耕田を飛んでゆく喪章つけたる紋白蝶は
（青森まほろば）加藤　捷三

茅葺きのリフォームギャラリー黒光りの柱にボーンボーン時計鳴り出づ
（青森県・弘前）岩間　甫

嘶きが額の内より聞えくる三十号の日本画の馬
（新潟八千代）荻島　俊雄

篝火が水面を照らす鵜飼船鮎を追い込む鵜の目が光る
（岐阜県・大垣水都）小玉　啓一

パッチワークに「メモリーボックス」と記されて父母姉妹の晴れ着の断片
（石川県・羽咋）竹津　弘子

iPod（アイポッド）籤に引き当て思案中姪の来（きた）りてさっと攫いぬ
（兵庫県・神戸シニア）多田　博子

「帰らないで」とせがむ孫との今日の別れ心うたれつハンドル握る
（兵庫県・和田山）北垣　正幸

右は慈念手左悲念手を教えられ札所に額（ぬか）衝き祈願をしたり
（兵庫県・山崎）竹田　長司

消しゴムに小さきキズのあるが見ゆ何か大切のものの如くに
（大分県・中津沖代）松本　達雄

夜半まで娘の帰り待つわれの目に街路灯の青白く見ゆ
（熊本中央）松尾　哲

柳壇

■選者　大木俊秀

【特選】

言いかけて閉ざした口ににごり酒

（千葉県・東庄）藤﨑　久男

（評）一句のいのちは下五が握っているといわれます。この作品の「にごり酒」がそのお手本。他の、五音字の酒と入れ替えてみるとよくわかります。コップ酒、生ビール、吟醸酒、発泡酒――どれも違いますね。濁り酒濁れる飲みて……島崎藤村の詩が、ふと、口をついて出ました。

ライバルの影踏む位置につけている

（宮崎橘）井上　忠一

（評）影踏む位置とは、影がいくら長くなっても至近の距離ですね。いつでも追いつき追い越せる位置。二、三歩先を行くライバルも当然背後に気がついています。追われるより追う方が強い。入れ替わろうとして緩めると背後の敵もスピードを落として「影踏む位置」を保つその駆け引き。さまざまな人生レースも同じですね。

（投稿要領→62ページ）

【入選】▼

結論を急ぎ他人に突き当たる
（青森県・八戸中央）大久保健峰

ヒコバエのただ一心に天を指す
（青森県・弘前中央）高橋　敬

知った振り知らない振りを使い分け
（岩手県・藤沢岩手）及川　平一

また三つ薄い頭が横並び
（栃木県・西那須野）佐藤　嗣人

憲法も早還暦となりにけり
（千葉県・東庄）大須賀光幸

予定表飲み会だけはちゃんと書き
（福井県・美浜）山路　義隆

角取れた石ころころと笑うのみ
（福井県・敦賀みなと）田中　信幸

無理をせず三位目指して頑張ろう
（兵庫県・宝塚グリーン）中島　弘風

仲直りさせる一肌脱ぐつもり
（京都鴨川）栩谷　四朗

好きなもの酒とタバコにサプリです
（高知柏）坂本　雅夫

父の字はたった四片の寄せ集め
（鳥取県・倉吉打吹）谷口　潜颪

二次会は勝組だけの同期会
（宮崎橘）黒木せつよ

ジャンボくじまたも計画狂わせる
（佐賀県・神埼）園田　祐

中途から涙を添えてする苦言
（長崎県・諫早）大﨑　博正

輝かぬままで終章近くなる
（長崎県・佐世保西）神谷　治雄

選：河相正名（日本写真家協会会員）

横内孟
山梨県南アルプス
［青空・富士山・桜・石仏］

●選評

高原の春の訪れ。遠くの富士山頂には雪がタップリ残り、早春の高原のさわやかな空気が感じられる。手前に石仏と桜、遠景に残雪の富士を配し、遠近感も程よく表現されている。石仏に照る射光が画面に立体感を出し、ブルーで統一されたシンプルな色彩が成功している。題名にもう少し「心象描写の物語性」がほしい。

優秀作

吉田幸蔵　愛知県江南
［飛ぶミツバチ］

岩佐清　岐阜県高山［紫陽花］

池内嘉正　大阪US［水中乾杯］

山野智要之助　広島あさひ
［ポピーに囲まれて］

坂本竹男　栃木県宇都宮［エイの顔？］
畔柳東一　愛知県岡崎竜城［みどりの湖］
安藤正一　愛知県豊田［姫沼と利尻富士］
成瀬正幸　愛知県豊田［老舗］
山田武夫　愛知県名古屋樟［水郷めぐり船旅］
高橋秀通　愛知県東浦［お薄を飲みながらの庭園］
松下正治　大阪梅田新道［山間の六地蔵］
作治隆幸　大阪府岸和田シニア［泥んこ遊び］
高山勇　和歌山県富田川［帰路］
吉野耕司　京都府宮津［老漁婦陸離］
菊野善之助　愛媛県松山ホスト［花芯］
川嶋亜基夫　福岡県久留米りんどう［初練習］
岸川潤子　佐賀ドリーム［異国］
川野幸志　沖縄県那覇守礼［朝の熱帯睡蓮］

全作品は国際協会公式ウェブサイトでご覧頂けます。　http://www.lionsclubs.org/JA/TheLion/MBS/index.html

LIONS GALLERY

「天馬」書（24×27ｾﾝﾁ）

筆とは長くつきあっていますが、一向に上達しません。我流で自分の好きなように書いてきたからです。原点に帰って一から……と思うものの、筆を持つとつい我流が出てしまいます。これぞまさに「下手の横好き」と言うものでしょう。

年齢的に「あと何年楽しめるかな」と考えた時、残り少ない時間は「本物」を書きたい、と思います。それで昨年、書の大家である江口大象先生の門を叩き、師事しました。遅ればせながら本物に挑戦中です。

この作品は、中国古代の文字で「天馬」と書いてあります。まだ我流の未熟なものですが見てやってください。

（もりもと　ふみお・66歳）

守本文雄
兵庫県・八鹿ライオンズクラブ
塗料資材卸

読者から

▼本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。
編集部

会員招請を考える前に

●6月号国際会長メッセージの「会員招請は適切な方法で」に賛意を覚えました。「数は力なり」ではありますが、ただ数を増やせば良いというものではないと思います。招請は適切な人を適切な方法ですることも大切です。時には、会員自身がクラブの在り方、本来の意義等について討議することも必要ではないでしょうか。

福岡県・甘木●谷口好幸

海外支援に親近感を覚える

●募金活動により、3月にカンボジア・シェムリアップ州にある病院に入院患者家族用のキッチンを寄付したばかりでしたので、6月号THEMEで採り上げられた海外支援に、親近感を覚えました。私たちの活動は、輪が広がりつつあり、引き続きこの支援を続けて行きます。

岐阜県・大垣東●子安正博

●カンボジアの教育支援に取り組む、千葉のライオンズクラブの活動に感動しました。小規模のクラブでは事業をいくつも続けると経費が増加し、動きが取れなくなります。また、打ち切ると対象地域の人たちやクラブ内でも不満の声が上がり、継続事業の難しさを痛感します。継続事業には、自立を求めることも必要ではないでしょうか。参考になりました。

宮崎県・川南●塩月利雄

会員増強の意志強まる

●会員が減少している中、山田理事の「会員数倍増を実現させる夢の会員増強計画」（6月号国際理事だより）に影響され、私も会員増強の意志が強くなりました。

神奈川県・横浜戸塚中央●熊谷政子

「分布図」を見て思う

●当クラブでも、会員数の減少には頭を痛めています。「日本ライオンズクラブ／クラブ数・会員数」の期首からの増減を見ますと、332-C地区でもかなり減っているのが分かります。クラブ内でも、家族会員の入会をと話は出ましたが、夫婦ではなかなかという会員

ライオン誌投稿要領

▼応募資格に特に記載のない場合は、ライオン、ライオネス、レオ及びその家族。
▼締切の記入のないものは随時受付。誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却はいたしません。
▼Eメールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。
▼いずれも住所、氏名、クラブ名を明記。

■こころのチキンスープ・ライオンズ編7月号30～31㌻
●ライオンズにまつわる感動的なエピソードの概略、あるいは1,200～2,000字程度の原稿。ストーリーは本誌ライターが書き下ろします。

■サービス・アクティビティ7月号32～33㌻
●活動日、場所、100文字程度の説明文を付記。写真はプリント（サービス判くらい）及びデータで。ServannAの「ライオン誌投稿」欄もご利用頂けます。

■クラブ・リポート44～48㌻
●アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。関連写真があれば添付。

■獅子吼51～55㌻
●会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。職種、年齢を明記。
●題字はハガキ程度の大きさ。

■論点～私はこう考える56㌻
●以下のテーマについてご意見や問題提起、疑問などを1,000～1,200字程度の原稿にまとめて。「例会プログラム」「周年式典」「単年度制」「姉妹提携」「LCIF」「年次大会」「資金獲得事業」※その他ライオンズクラブに関する内容であれば可

■俳壇・歌壇・柳壇57～59㌻
●一人ハガキ1枚に3句／首まで。締切：毎月15日。

■MY BEST SHOT60㌻
●会員及びその家族でアマチュア。
●応募作品：題材は自由。プリント（サービス判～2L判ぐらい）、スライド（35㍉以上）、またはデータ（JPEG最高画質）。1人5点まで。
●プリントは写真の裏に紙を貼り、スライドには必ずマウントをつけ、データはメールの添付書類で本文に、氏名、クラブ名、年齢、題名、撮影場所、電話番号を明記。返却希望の場合は、住所、氏名を記入した返信用封筒に切手を貼り同封。締切：毎月15日。

■ライオンズ・ギャラリー61㌻
●応募作品：絵画、書、工芸などジャンルは自由。作品のスライド・フィルムか、カラー・プリント（2L判）。氏名、クラブ名、年齢、職種、作品のサイズ、題名を明記し、作品に関するエッセー、自評など（300字程度）、顔写真を添付。

■リーダース・プラザ62～63㌻
●クラブ会員刊行物：クラブ並びに会員が刊行された出版物を1部送付。
●伝言板：読者間の情報交換に。
●読者から：本誌への意見、感想など。

送り先：〒104-0045中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階　ライオン誌事務所
ファクス：03-3546-2630
Eメール：edit@thelion.jp

が多く、別の方法も考えながら会員増強を図らなくてはいけないとも思います。

宮城県・仙台泉中央●西城博成

まず、自分が実践していくと決意

●「リーダーシップの養成はライオンズの発展の鍵」（6月号ピックアップ）を読んで、会員のリーダーシップを強化することが、クラブ活性化に何よりも大切なことだと思った。私は今期クラブ会長である。まず、自分が実践していくと決意した。

長野県・佐久●箕輪清史

『ライオン』誌から情報収集

●あらゆる事業、創造性のあるユニークな事業すべてに言えることは、情報収集から、アイデア、知恵、創造力が生まれているのだと考えます。私にとって、いつも「クラブ・リポート」は活動の起爆剤。大変勉強になります。

秋田県・仙南雁の里●久米力

●会員増強と魅力ある例会づくりに苦慮している昨今、他クラブの活動が載っている「クラブ・リポート」は、大変参考になる。個人はもとよりクラブとしても積極的に活用したい。そこで我クラブは『ライオン』誌をクラブ一括送付に切り替え、年4～5回の「『ライオン』誌必読例会」を行っている。知識の培養とアクティビティの重要性を再認識し、「We Serve」の精神の下、楽しく元気の出るクラブ運営の一翼としたい。『ライオン』誌は情報の宝庫である。

大阪府・貝塚●竹田昌弘

素朴なボランティアに感心

●ライオン野口正二郎の随筆「タイの山村・バンフェイケオボン」（6月号獅子吼）の海外協力研修ボランティアは、素朴なボランティアで感心しました。ライオンズのアクティビティの参考にもなります。

愛知県・名古屋瑞穂●伊藤照之

伝言板

■姉妹提携クラブ募集

私たち川崎白百合ライオンズクラブは現在、姉妹クラブを東北あるいは北陸地方を主として募集しております。活動拠点である神奈川県川崎市麻生区は東京・新宿から小田急電鉄の急行で21分。近くには岡本太郎美術館・日本民家園（生田緑地）・読売ランド遊園地・東京よみうりCC・よみうりGC等が点在する緑多い丘陵地です。

結成は1974年3月、現在37人の会員（内女性6人）を擁し、献血、清掃、補助犬の育成募金、消防署とのタイアップによるAED心肺蘇生法路上講習会（写真）等のアクティビティを行っています。

姉妹クラブの提携により他地域のライオンズクラブの方々と親交を深め、より一層のライオニズムの向上を目指したいと思っています。すばらしい出会いを楽しみにしております。

連絡先：川崎白百合ライオンズクラブ 川崎市麻生区百合丘1・20・7白井ビル3A・1（〒215・0011）／TEL：044・959・1700／FAX：044・959・1707／電子メール：kawasaki-shirayuri@s8.dion. ne.jp

訂正とお詫び

本誌7月号において以下の誤りがありました。

15ページ「2007・08年度地区ガバナー紹介」の334・C地区スローガン「地域と共生 融和と調和で感動を呼ぶ奉仕」は「地域と共生 融和と**協調**で感動を呼ぶ奉仕」の誤りでした。

23ページ「日本ライオンズクラブ／クラブ数・会員数」の世界のライオンズ・国際協会集計は、2006年3月31日ではなく2007年3月31日の誤りでした。

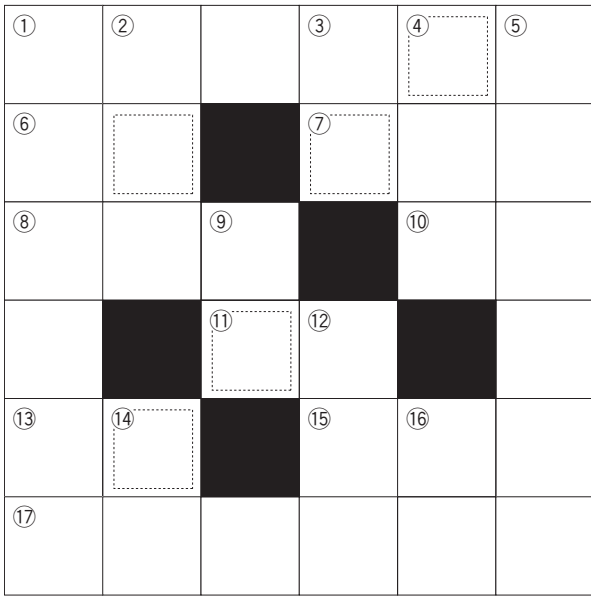
関係各位にご迷惑をお掛けしたことをお詫びし、訂正致します。

ライオン誌事務所来訪者芳名録

6/8 神奈川県横浜都築シーサイド 田中ひろ子
6/8 兵庫県神戸イースト 辻 則昭
6/8 兵庫県神戸レインボー 団 英男
6/18 神奈川県川崎白百合 島津 恵右
6/25 愛媛県今治東 井出 幸彦

クロスワードパズル

点線に入る文字をヒントを基に並べ換えてください。正解者の中から10人の方に記念品を差し上げます。ハガキに答えと氏名、クラブ名、住所、電話番号、本誌の感想を書いてご応募ください（あて先は66ﾍﾟｰｼﾞ）。締切は2007年8月20日。

①	②		③	④（点線）	⑤
⑥	（点線）	■	⑦（点線）		
⑧		⑨	■	⑩	
	■	⑪（点線）	⑫	■	
⑬	⑭（点線）	■	⑮	⑯	
⑰					

解答 □□□□□　ヒント：急ぐと頭痛を起こします

↓タテのカギ

①東北地方の七夕行事。青森が有名
②紀貫之らが編纂した和歌集
③刑事を意味する俗語
④最も秘密にすべきこと
⑤皇室が庭園で開く接待の宴
⑨目、鼻、口などがある部分
⑫砲身の長い大砲。加農とも書く
⑭元素記号P。マッチの原料
⑯開けたり、閉めたり、回転したり

←ヨコのカギ

①機嫌を取るための優しくこびる声
⑥刀、鎧、兜、銃など
⑦代々その家に伝わる教えや戒め
⑧喧嘩などで言う歯切れのよい言葉
⑩他の物事にたとえること
⑪周囲より小高い所。低い山
⑬価格以上のお金をもらった時に返す差額
⑮穏やかで、のびのびと気持ちよい
⑰身近な人々への愛情

■前回の答え

ナ	ガ	タ	チ	ヨ	ウ
ゴ	カ	イ	■	ウ	タ
ヤ	■	フ	ウ	シ	ガ
バ	リ	ウ	ム	■	ツ
シ	■	ノ	■	ク	セ
ヨ	ウ	メ	イ	モ	ン

答えは「七夕」

築地通信

●シカゴ大会の閉会式後、創設者メルビン・ジョーンズが眠るマウント・ホープ墓地を訪ねた。

ジョーンズの墓は小さな丘の上にあり、きれいに手入れされていた。協会の誕生から90年、今のライオンズは創設者の目にどう映るだろう。そんなことを思いながら手を合わせた。（鈴木）

●シカゴ国際大会でトヨタ・プリウスが当たる……。大会に参加された皆さんは、当たっちゃったら日本に送るのにいくら掛かるかな、なんて心配されたのでは？　抽選が行われたのは閉会式。まずはアマラスリヤ新国際会長がくじを引いて10人を選び出し、その中から当選者が決定。プリウスを手に入れたのは、スリランカの会員だった。もちろん、抽選は機械を使って公正に行われたのだが、自国の会員が当選するなんて、さすが国際会長は運が強い。（河村）

読者プレゼント

■シカゴ国際大会土産を5人の読者に

国際協会が製作・販売をしている第90回シカゴ国際大会のハイライトを収めたＤＶＤ（15分）。インターナショナル・パレードや総会、さまざまなイベントの様子が収録されています。大会に参加された方もそうでない方も、クラブ例会で上映したり、家族や友だちとも一緒にお楽しみ頂けます。国際協会90周年記念バナー（写真）とセットで５人の読者にプレゼントします。

■平山郁夫展チケットを10人の読者に

２００７年９月４日～10月21日、東京国立近代美術館で開催される「平山郁夫　祈りの旅路」のチケット（２枚１組）が10人の読者にプレゼントされます。

平山氏の喜寿記念企画である同展では、仏教やシルクロードを題材とした作品の他、広島での被爆体験を経た上での生きることへの深い問いかけ、平和への切実な祈りが込められた作品など代表作約80点が展示されます。

入涅槃幻想　1961年
東京国立近代美術館

『ライオン』誌日本語版バック・ナンバー

2007年7月号

THEME：青少年健全育成
2006-07年度地区ガバナー紹介
ROAR：336複合地区

2007年6月号

THEME：海外支援
PICK UP：リーダーシップ
ROAR：335複合地区

プレゼント応募要項

はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号、クラブ名と「シカゴ土産」「平山郁夫展」とご希望の品を明記し、下記のあて先へ。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は8月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌事務所

ウェブサイトからの応募
www.thelion-mag.jp/modules/form1

次号予告

THEME

薬物乱用防止

６月８日の薬物乱用防止全国大会では大勢のライオンズが武道館に集い、薬物乱用防止に対する熱意が示された。今後一層の活動の広がりが期待される中、この問題に対する認識を更に深めるべく、長年、教育現場で薬物乱用防止にかかわってきた教育評論家の原田幸男氏に青少年と薬物乱用の現状について寄稿して頂く。

国際理事会構成員紹介

国際会長を始め、２００７・08年度国際理事会構成員の氏名と所属委員会を紹介する。

ROAR・ローア

――まるごと337複合地区

「トピックス」は福岡県・鞍手、宮崎県・門川、長崎ベーシック、熊本県・宇土、鹿児島県・市来郷の各クラブ。「ふるさと探訪」は大分県別府市を訪ねる。温泉観光が盛んになった明治時代、別府の街にも多くの湯治客が訪れるようになる。滞在中の生活用具として彼らが買い求めたものが竹細工であった。農家の副業としてささやかに作られていた竹細工はお土産としても歓迎されるようになり、別府竹細工の名は一気に日本全国に知られるようになる。

Official publication of Lions Clubs International.

LIONS INTERNATIONAL
We Serve

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

EXECUTIVE OFFICERS
President, MAHENDRA AMARASURIYA, No. 70, Fife Road, Colombo 5, Republic of Sri Lanka; Immediate Past President, JIMMY M. ROSS, PO Box 368, Quitaque, Texas, 79255 USA; First Vice President, ALBERT F. BRANDEL, 14 Herrels Circle, Melville, New York 11747-4247 USA; Second Vice President, EBERHARD J. WIRFS, Kelkhem, Taunus, Germany.

DIRECTORS
JAN AKE AKERLUND, Hollviken, Sweden; MALIK KHUDA BAKSH, Karachi, Pakistan; DANA BIGGS, California, USA; ERMANNO BOCCHINI, Italy; PEI-JEN CHEN, Taipei, Taiwan; SUNG GYUN CHOI, Seoul, Republic of Korea; JOSEPH F. GAFFIGAN, Silver Spring, Maryland, USA; RYUICHI GOTO, Tokyo, Japan; WILLIAM C. HANSEN, Rochester Hills, Michigan, USA; DR. PATRICIA HILL, Alberta, Canada; LARRY G. JOHNSON, West Virginia, USA; MAURICE M. KAHAWAII, Hawaii, USA; VINOD KHANNA, New Delhi, India; LELAND R. KOLKMEYER, Wellington, Missouri, USA; EDWARD J. LECIUS, New Hampshire, USA; FRANCISCO FABRICIO DE OLIVEIRA NETO, Catole do Rocha, Brazil; GEORGIOS J. "KOKOS" NICOLAIDES, Nicosia, Cyprus; PEDRO A. BOTELLO ORTIZ, Monterrey, Mexico; DR. HAROLD R. OTT, Pennsylvania, USA; GEORGES PLACET, Ludes, France; K.G. RAMAKRISHNAMURTHY, Coimbatore, India; TAPANI ANTERO RAHKO, Järvenpää, Finland; RUSSELL SARVER, Durand, Illinois, USA; KENNETH C. SCHWOLS, Loveland, Colorado, USA; STEVEN DALE SHERER, New Philadelphia, Ohio, USA; YOSHITSUGU SHIGEMATSU, Osaka, Japan; DJOKO SETIONO SOEROSO, Jakarta, Indonesia; DAVID E. "DAVE" STOUFER, Washington, Iowa, USA; TORU TANINO, Shimonoseki, Japan; WAYNE E. DAVIS, Virginia, USA; NELSON VIDAL, Lima, Peru; VINCE VINELLA, Nevada, USA; WILLIAM B. WATKINS, SR., Tennessee, USA;

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　伏見龍・山田實紘・谷野徹
委員長　砂田繁雄（334）
編集長　菊池清二（332）
委　員　中島洋吉（330）・古谷野環（331）
　　　　笹本瞭（333）・松田毅（335）
　　　　尾﨑明雄（336）・井村一男（337）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.（03）3542-9571（代）　FAX.（03）3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

編集室

直心と奉仕の心

ライオン誌
日本語版委員長
◉
砂田繁雄

ライオニズムの原点とは「We Serve（われわれは奉仕する）」、奉仕の心であります。

その奉仕とは、友愛と相互理解の上に立った純粋なものでなければなりません。ジミー・M・ロス前国際会長も「We Serve」をスローガンに掲げ、ライオニズムの高揚に向けて全力を注ぎ、世界中の人々の平和を願って精進されました。

人はこの世に生を受け、周りに育まれ、多くの人のお世話になり、幾多の恩恵を受けて今があります。ただ、自分の才覚や、努力だけでは今日の自分はありえません。我々ライオンズは死ぬまでに、今までに受けた恩恵を倍にしてお返しし、借りをなくして人生を終わりたいものです。このご恩返しこそがライオンズ・メンバーとしての原点であり、無限の奉仕につながるのではないでしょうか。

相手の立場を十分に理解し、今相手が何を望んでいるかを察し、同志の仲間と手を携え、報いを求めず、相手のためになるものであるならば、「進んで気持ちよく」「進んで楽しく」出来る奉仕活動こそ、私たちが何をおいてもやらねばならない「ウィ・サーブ」ではないでしょうか。

人間は生まれながらにして、神様が心の中に埋め込んでくれた純粋で、素直な心があります。混じりけのない、清らかな心がある限り、人から言われるまでもなく、その立場に立って自覚し、進んで人のためになることこそ、メルビン・ジョーンズが提唱された、地域のために、国家のために、奉仕する心に結び付くことになるのではないでしょうか。

今こそ、なぜ自分がライオンズ・メンバーであるのか、何をしなければならないのかをもう一度振り返り、その原点を思い起こしましょう。そこには必ず奉仕の灯りが見えてくるはずです。

道を照らす灯りが足りないのなら、その灯りとなる友を誘い、大きな灯りとして多くの人たちの足元を照らしてあげようではありませんか。